

株式會社日本蓄音器商會坂工場入口

沿革

ジー・アール・ゲリー (大正八・六―昭和三・一) 社長  
 スター・エッチ・ホワイ (昭和三・一―同二〇・一〇) 代表  
 取締役社長三保幹太郎 (昭和一〇・一―現在)

同社は明治四十三年十月、米人エフ、ダブリウ、ホーン氏等の發起に依り、日本蓄音機製造株式會社及び日本蓄音機商會兩社關係者の共同出資の下に、資本金總額參拾五萬圓を以て、東京市京橋區銀座一丁目一〇番地に設立せられ、川崎町久根崎 (後川崎市港町と改稱す) に其工場を建設した。當時同社はニッポホン (後鷲印) の商標を以て、蓄音機及びレコードを製造販賣し、我國蓄音機界の搖籃時代に覇を唱へた。後明治四十五年二月其本店を横濱市山下町七〇番地に移し、同時に資本金を五拾萬圓に、又同年四月に之を八拾萬圓に、又大正四年四月更に之を九拾萬圓に増資し、次第に其業務を擴張した。

大正八年十一月に到り其本店を横濱市山下町二三番地に移轉し、翌十二月に資本金を壹百五萬圓に増額し、翌九年八月には更に之を倍額増資して資本金總額を貳百拾萬圓とした。

大正十年には濱松市所在の大和木工株式會社を買収し、家具並に木工製品の製作を開始し、降つて同十三年十二月其本店を東京市京橋區傳馬町三丁目第一相互館に移し、昭和二年一月更に之を東京市麴町區内幸町一丁目三番地に移轉した。

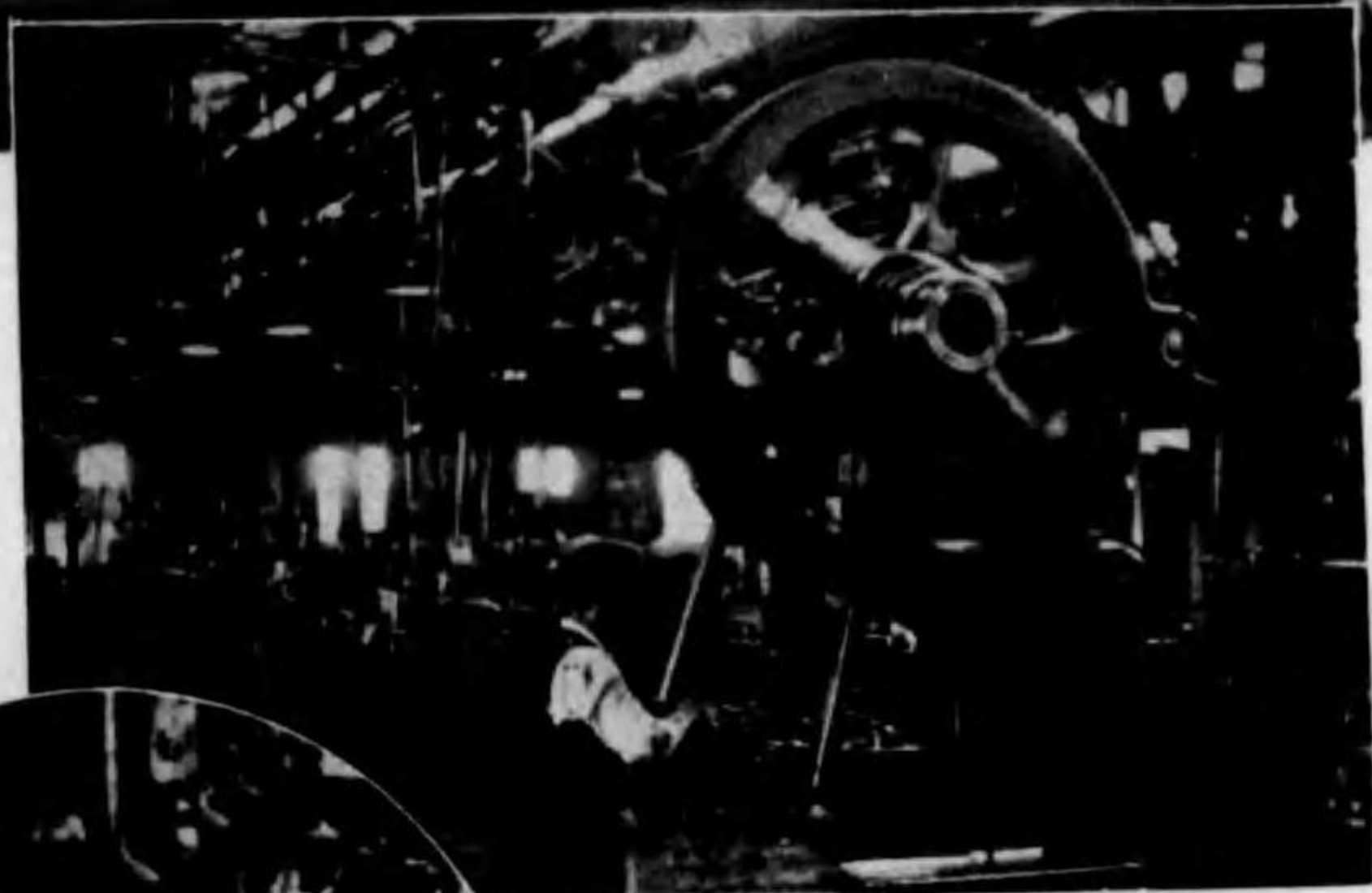
當時一般レコードの吹込方法がアコースチック式より電氣式に變遷するに際し、昭和二年五月同社は英國コロムビア會社 (イー、エム、アイ) との間に技術並に資本の提携を行ひ、以後コロムビア、リガール、ラッキー等のレコードを製造販賣し、昭和三年には、傍系日本コロムビア蓄音機株式會社を設立するに至つた。

昭和四年八月其資本金を貳百八拾萬圓に増額し、又此月川崎工場敷地に建築中なりし本店事務所及び工場の増改築が竣成し、本店を同所に移轉し、次で昭和八年英國コロムビア會社より特許を買入れ、自動停止機付蓄音機を製造販賣した。

降つて昭和十年十月に到り、同社は遂に外資を離れ、資本經營共に日本産業株式會社の傘下に置かる、こととなり、三保幹太郎氏取締役社長に就任した。此年ラヂオ兼用蓄音機及び電氣蓄音機を製造販賣し、昭和十二年には傍系株式會社アーチスト、ブッキング、コーポレーションを設立した。又同年九月、一躍八百四拾萬圓の増資を行ひ、資本金總額壹千百貳拾萬圓の大會社となるに到つたが、同年十二月日本産業株式會社の滿洲移駐に伴ひ、一切を擧げて當社の經營に委ねらる、事となり、山口喜三郎氏取締役會長に、伊東禿氏代表取締役に就任し現在に及んで居る。



⑤ 舞坂工場木材乾燥場



④ プレス作業

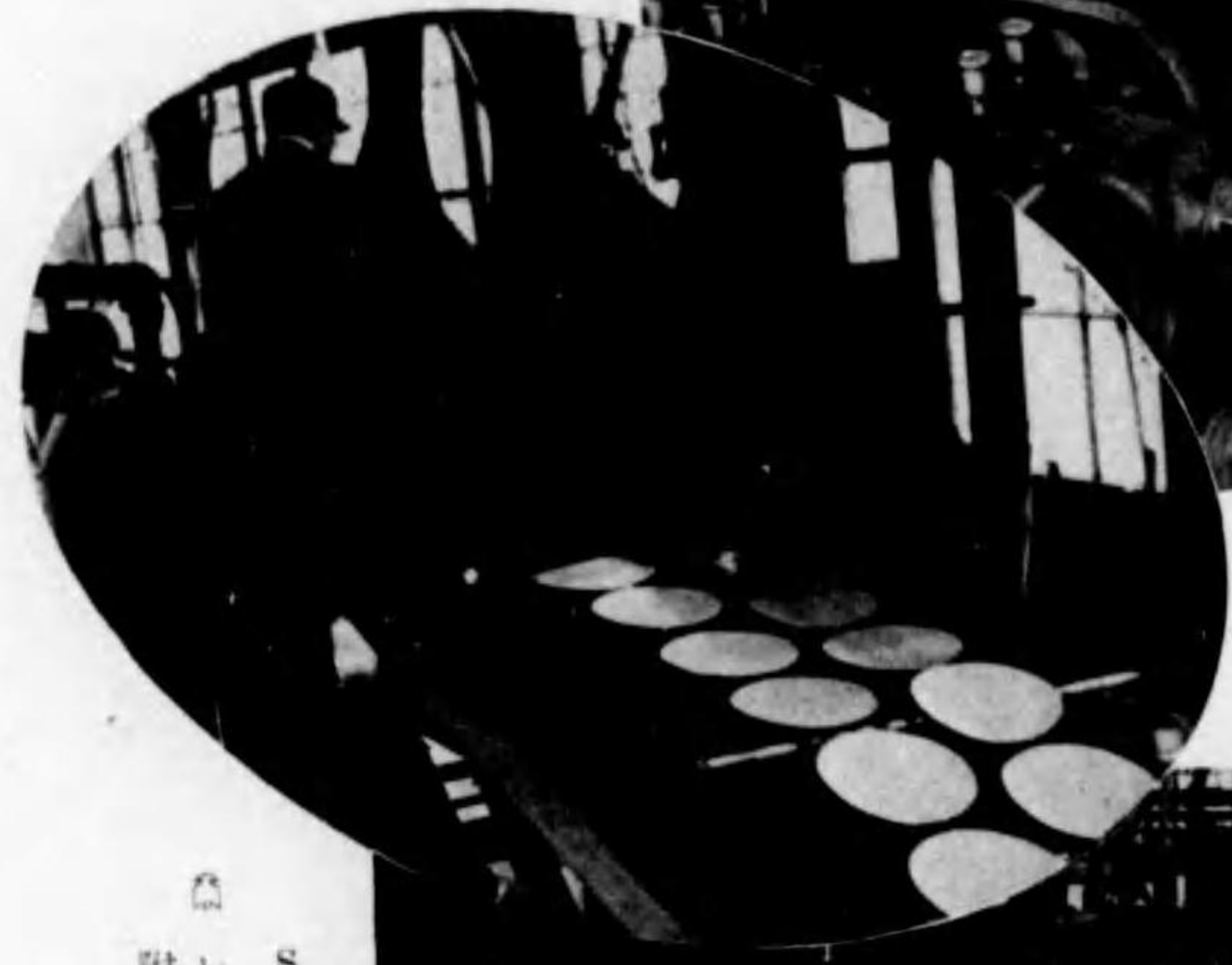
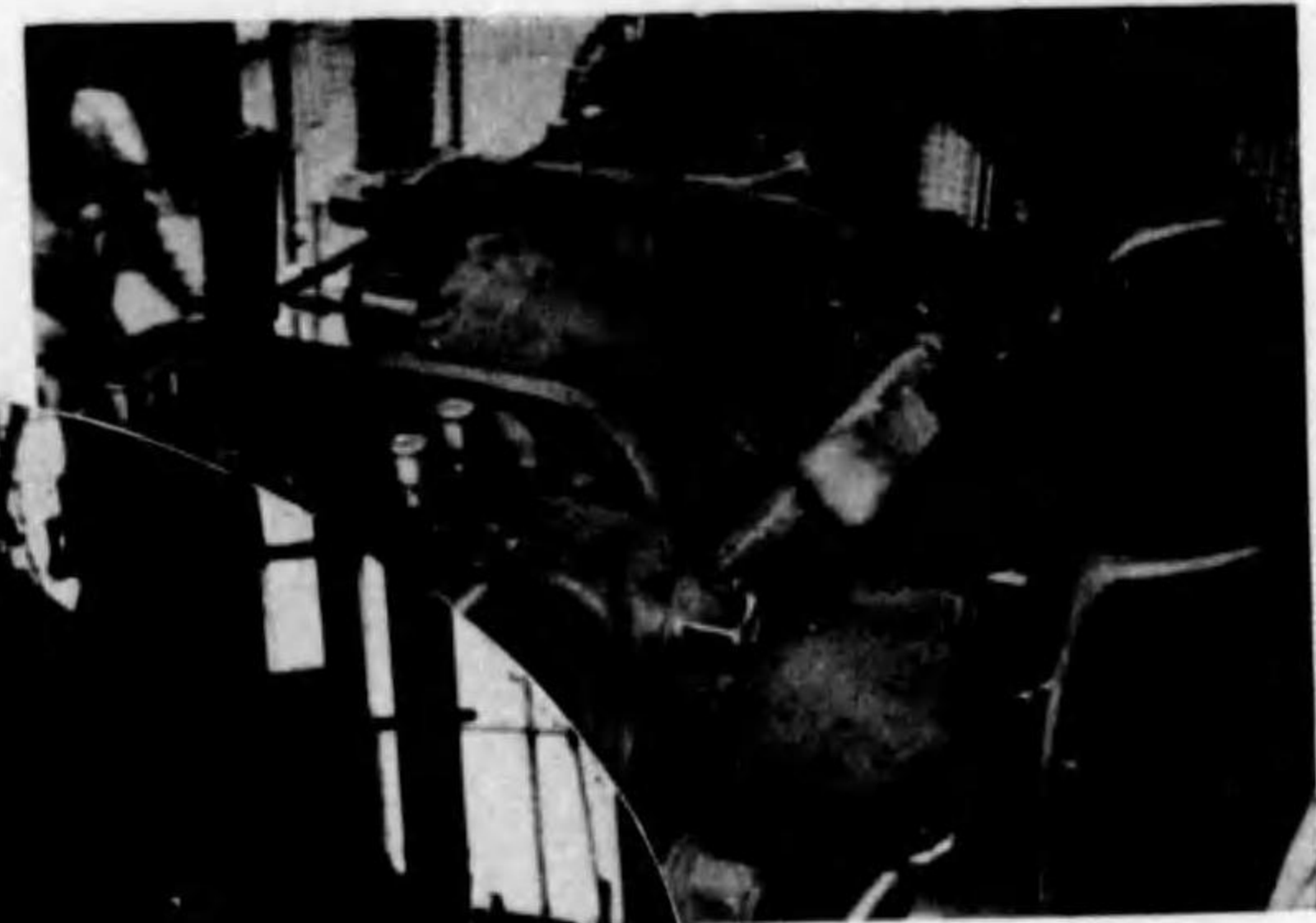


③ レコード倉庫内  
出荷作業

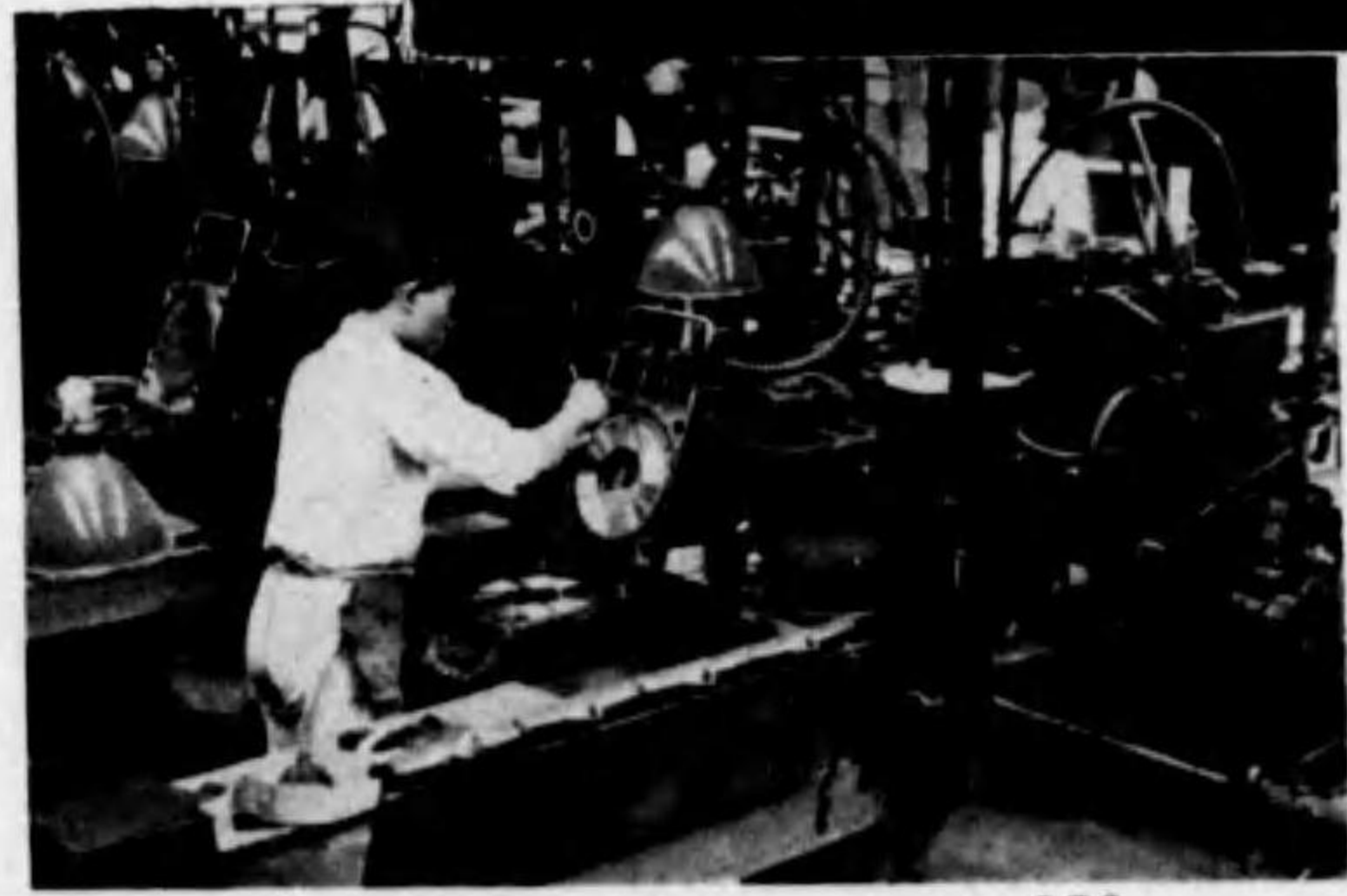
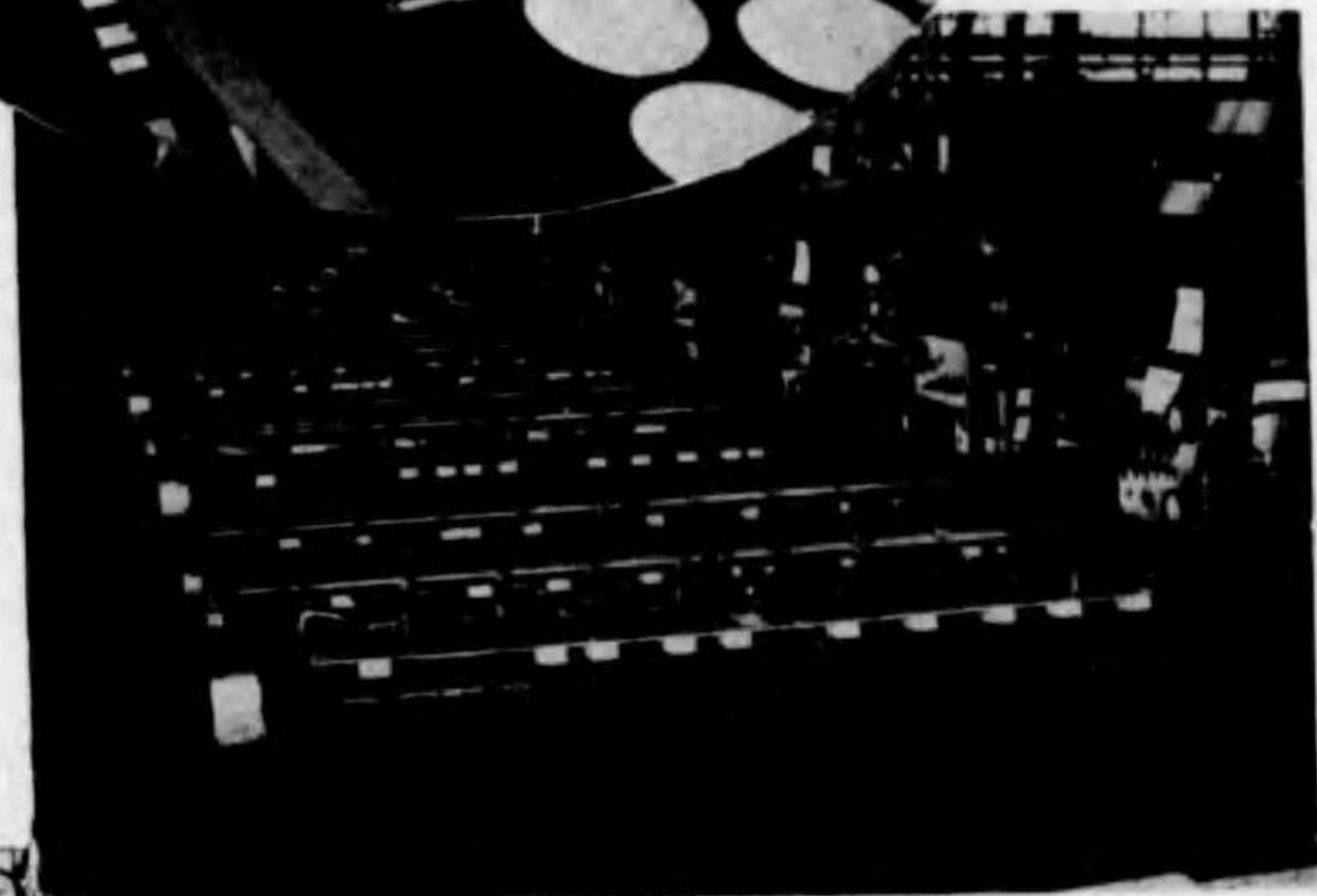


② モーター組立作業

レコード原料  
練合ロール ①



① S.P.N機械  
レコード表面原料  
附着作業



② レコード原板鍍金工場  
レコード原板取付作業

コロンビア蓄音器工場寫眞

スーパー・テロダイン  
CR  
ラジオ受信器



コロムビア  
テレビジョン受像器

コロムビア手提用宣傳器

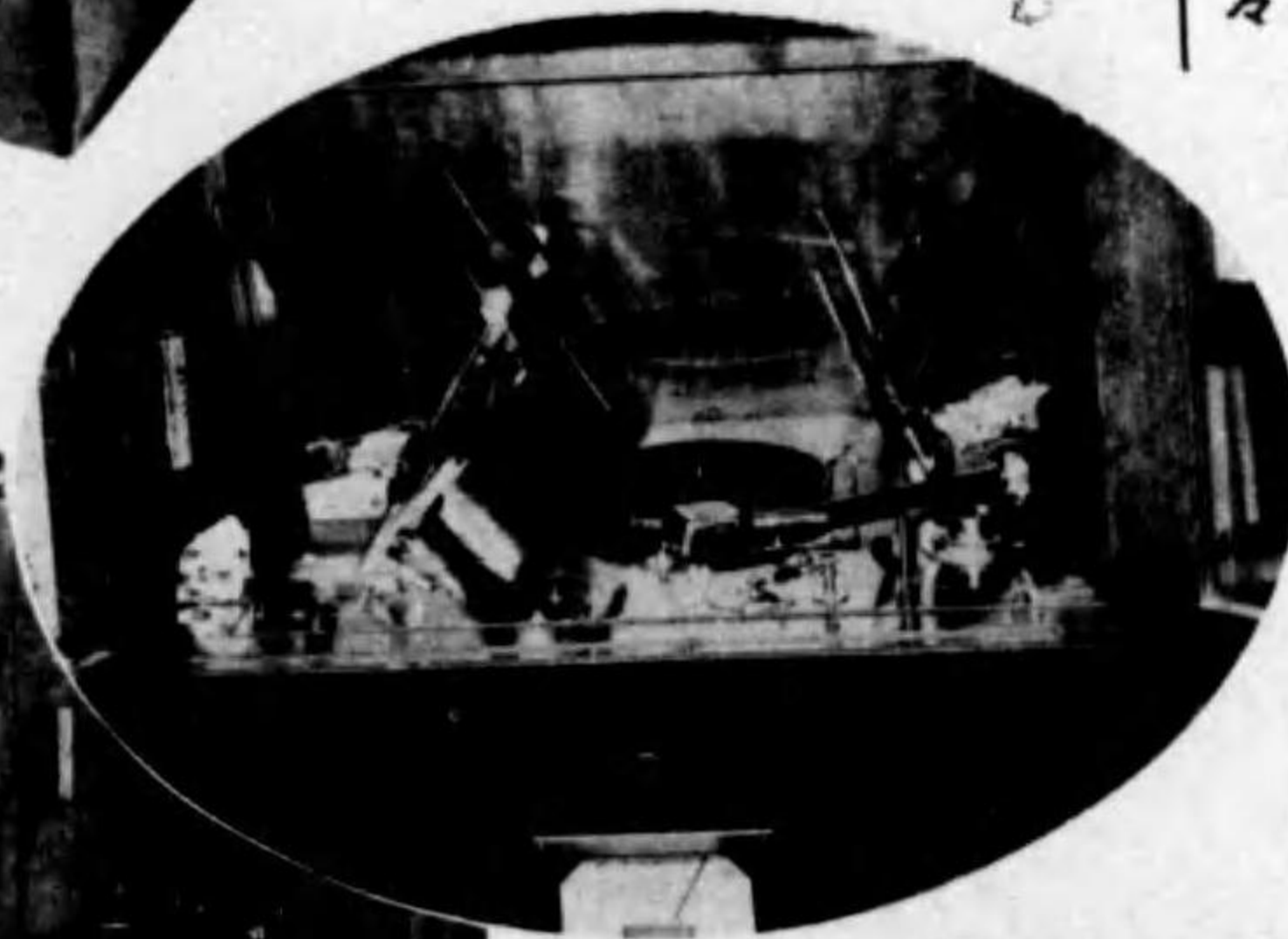


コロムビア製品の色々



コロムビア卓上型蓄音器

レコード自動交換装置

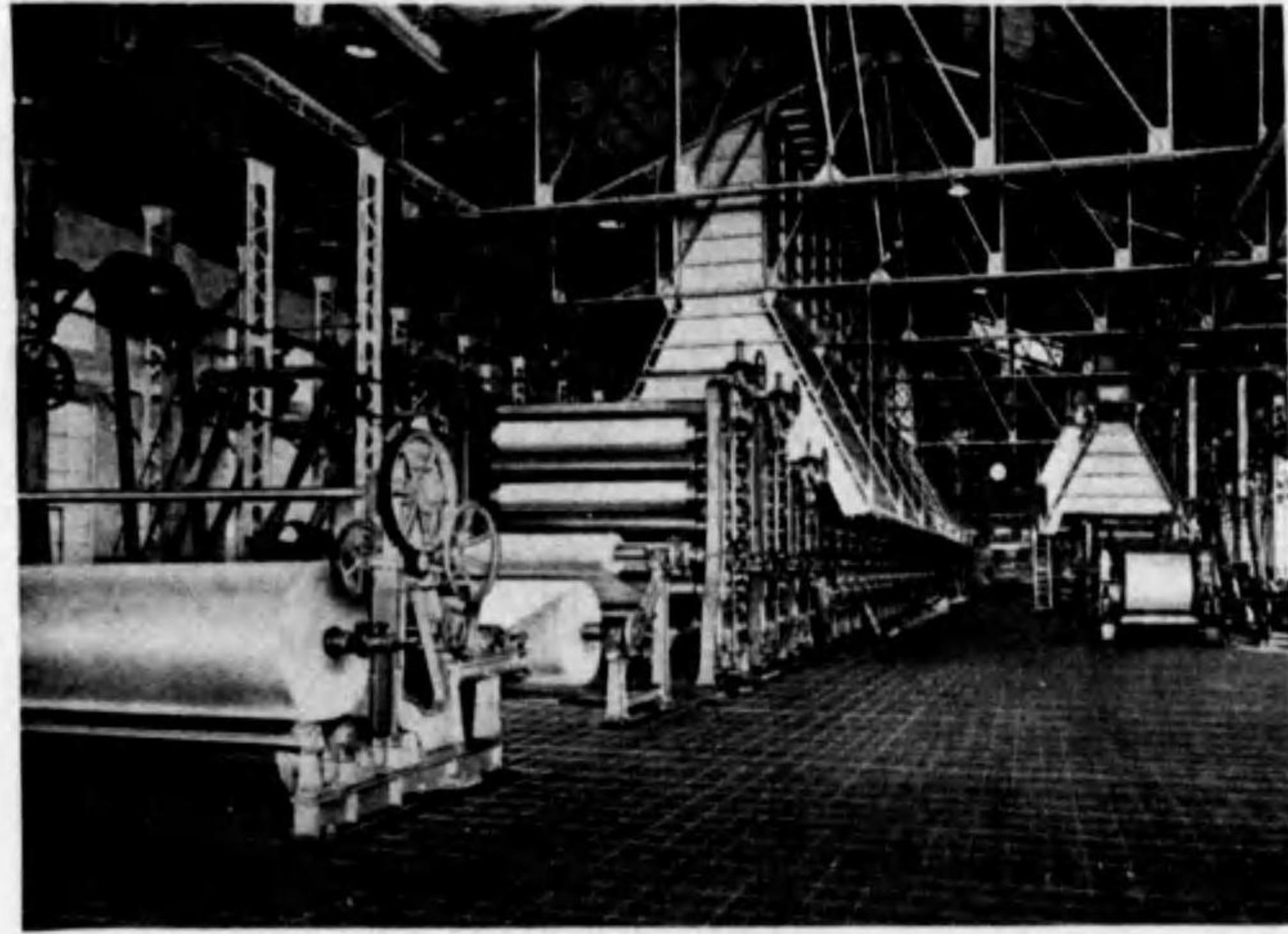


最高級ラヂオ兼用  
自動演奏式電気蓄音器



コロムビア  
手提型蓄音器

# 聯合紙器株式會社



聯合紙器株式會社抄紙工場

本社所在地 大阪市此花區大開町四丁目四三番地  
 資本金 六百萬圓(拂込済參百七拾五萬圓)  
 設立年月日 大正九年五月二日

營業科目 各種パッキングケース、衣裳函、硬質ダンボール紙  
 (コルゲードボード)、強靱板紙(ソリッドファイ  
 パー)、膠着料珪酸曹達(シリケートソーダ)等の  
 製造並に販賣

### 工場並に營業所其他

- 工場並に營業所其他
  - 淀川工場 (本社所在地に同じ)
  - 川口市領家町
  - 東京營業所及び工場 東京市本所區錦糸町一丁目二五番地
  - 名古屋營業所及び工場 名古屋市昭和區江越町三丁目八番地
  - 小倉營業所及び工場 小倉市西魚町一丁目一番地
  - 京都營業所及び工場 京都市右京區西院中溝町
  - 岡山營業所及び工場 岡山市上石井西口町
  - 朝鮮營業所及び工場 京城府京町一丁目一番地
  - 臺灣營業所及び工場 臺北市建成町四丁目一四番地
- 駐在所其他
  - 廣島駐在所及び工場 廣島市研屋町



聯合紙器株式會社製紙選別工場

- 倉庫
  - 北海道駐在所 函館市高砂町
  - 北陸駐在所 高岡市榮町五三番地
  - 四日市駐在所 四日市市新川原町
  - 瀬戸駐在所 瀬戸市追分町
  - 多治見駐在所 岐阜縣多治見町神明町
  - 名古屋東駐在所 名古屋市東區山崎町
  - 難波駐在所 大阪市浪速區元町一丁目
  - 備後町倉庫 大阪市東區備後町一丁目

### 關係會社

- 東京紙器株式會社 日本紙器株式會社 丸吉製紙株式會社 上
- 海紙器株式會社 高千穂製紙株式會社 滿洲紙工株式會社 株
- 式會社上海紙業公司 名古屋パルプ製造株式會社 東洋紙器株
- 式會社 滿洲紙器株式會社

社長 名 專務取締役社長 井上 貞治 郎(創立—現在)

### 沿革

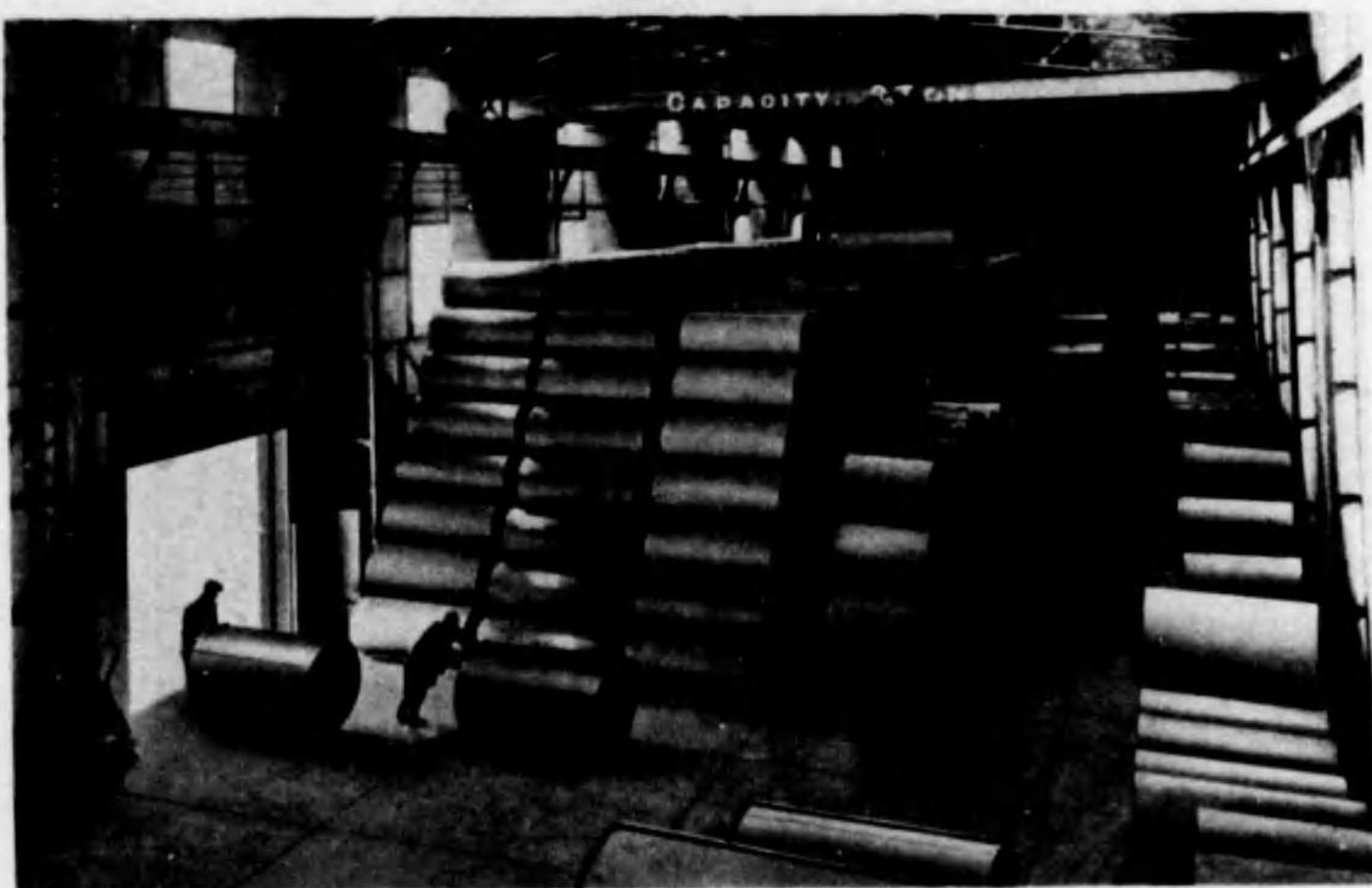
同社は、大正九年五月、當時の當社々長新莊吉生氏及び田村貫一、井上貞治郎、川路利彦、中村立三の諸氏が發起人となり、紙器、包装用紙等の製造を目的とし、資本金貳百萬圓を以て東京市本所區大平町一丁目一番地に設立したもので、

設立と同時に同地所在の紙器會社三成社（井上貞治郎氏經營）の機械及び工場設備一切を買収繼承し、併せて樺原紙器製作部榮立社（東京府下日暮里所在、經營者中村立三氏）、東京紙器製造工場（東京府下大井町所在、經營者川路利彦氏）、帝國紙器株式會社（大阪市北區西野田草開町所在）の三紙器會社を吸収合併して直ちに營業を開始するに至つた。

斯くて翌十年三月、神奈川縣橋本郡御幸村字南河原に川崎工場を新築して、舊工場（三成社川崎分工場）及び大井工場を之に併合、又新に小倉市に營業所及び工場を設け、十二年二月には大阪市天王寺工場の新築工事竣成を見る等大いに羽翼を伸ばしつ、あつた折しも同年九月一日の關東大震災に遭ひ、本社及び東京工場全燒の厄に遇つたが、社業は一路進展を續け、同年十一月には大阪市所在の日本製紙株式會社を買収して資本金を貳百貳拾萬圓に増額し、爾後同社を大阪支社とし、又同工場を千舟工場と命名、大阪支社事務所及び營業所を同市博勞町二丁目に移轉する等、同社の基礎は愈々確實なるものとなるに至つた。

越へて十四年六月、京都市東洞院に京都營業所及び工場を開設し、又此年ダンボール、稚蠶飼育函の發賣を開始した。十五年一月本社を大阪市西淀川區佃町七〇一番地に移し、十月専務取締役井上貞治郎氏専務取締役社長に就任、業務の刷新を圖ると共に、昭和二年七月資本金壹百萬圓を減資して總額壹百貳拾萬圓とし、舊名古屋工場を廢止して新たに名古屋營業所及び工場を開設し、翌三年六月には大阪市に資本金五萬圓を以て帝國紙業株式會社を、同年十月には廣島市に資本金貳萬五千圓を以て山陽紙器株式會社を設立し、十二月本社及び事務所を大阪市東區北久寶寺町二丁目五九番地に移した。

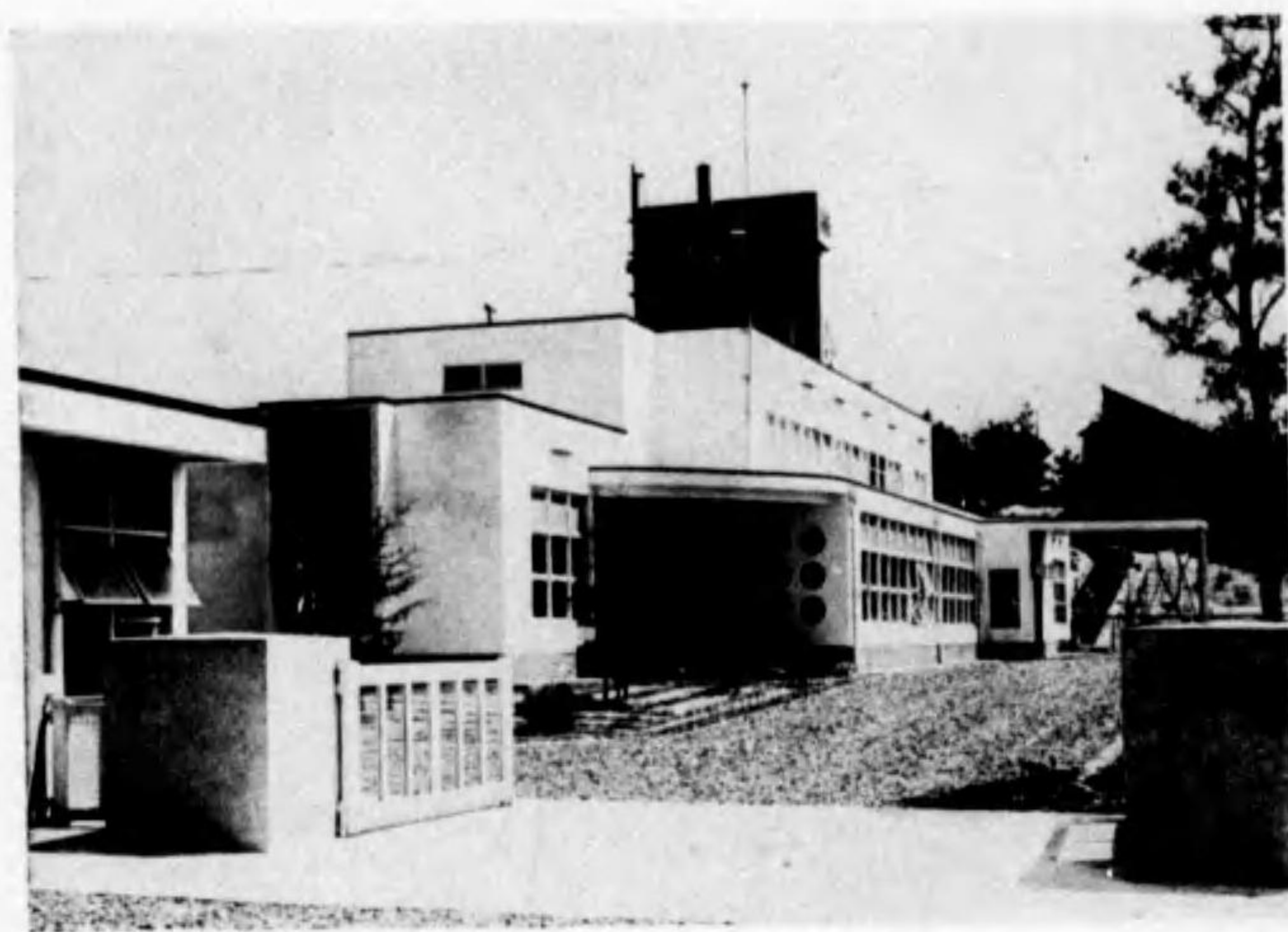
斯くて社運漸く興隆、昭和五年五月大阪市此花區大開町四丁目に工場敷地一萬一千餘坪を購入して製函工場並に



聯合紙器會社原紙倉庫

附屬倉庫等の現淀川工場建設に着手し、七年二月には岡山市上石井に岡山營業所及び工場を新設、九年二月資本金を參百萬圓に増額、同年五月淀川製紙工場建物十二棟の建築に着手、十一年一月、四日市（市）並に瀬戸市に工場を設置、同年七月には前記淀川工場の建築工事は全部竣工し、又新に岐阜縣多治見町並に名古屋市東區に工場を新設する等、益々事業の擴張を行ひ、同十二年三月資本金を六百萬圓に増資して、當社所有の川口工場を買収した。十三年二月本社を現在地へ移轉、翌三月川崎市に資本金四拾萬圓を以て東京紙器株式會社を設立し、六月には帝國紙業株式會社を解散して新に資本金四拾八萬圓を以て日本紙器株式會社を創立し、同社千舟工場の設備一切を譲渡、同十四年一月には上海に資本金拾五萬圓を以て上海紙器株式會社を起し、同年六月には奉天に資本金拾萬圓を以て滿洲紙器株式會社を設立して海外進出に乘出す等、近來益々發展振りを示し、製紙製函の一貫的作業を特色としてゐる。十三年末現在に於て、製紙の月産額一千八百噸。製函月産額四百萬圓の多きに及んでゐる。

## 高千穂製紙株式會社



高千穂製紙株式會社工場事務所

本社所在地 東京市麹町區有樂町一丁目七番地

資本金 貳百萬圓(全額拂込済)

設立年月日 昭和十二年六月廿四日

營業目的 製紙並にパルプ製造販賣

工場 パルプ工場及び木工場

(福岡縣糟屋郡古賀町一、〇一五番地)

社長名 取締役社長 大川義雄(創立—現在)

### 沿革

昭和十二年六月その生涯を我が國製紙事業の發展興隆に貢獻せる故大川平三郎翁の衣鉢を繼ぐ嫡子大川義雄氏等の發起により製紙及びパルプの製造を目的として同會社は設立され、設立と同時に舊國益マオラン會社の福岡縣古賀工場全部を買收し又當社と資本的提携を結び、同年十月我が國最初の階段式パルプ製造工場の建設に着手し、翌年七月之が竣工を待つて本格的操業を開始した。現在同社のパルプ製造設備は年八、四〇〇噸の生産能力を有してゐる。

## 名古屋パルプ製造株式會社



製紙材料置場

本社所在地 東京市芝區今入町三番地

資本金 百拾萬圓(内拂込済五拾五萬圓)

設立年月日 昭和十三年十月十日

營業科目 製紙用パルプ、薬パルプ、黄板紙(黄ボール紙)等の製造並に販賣

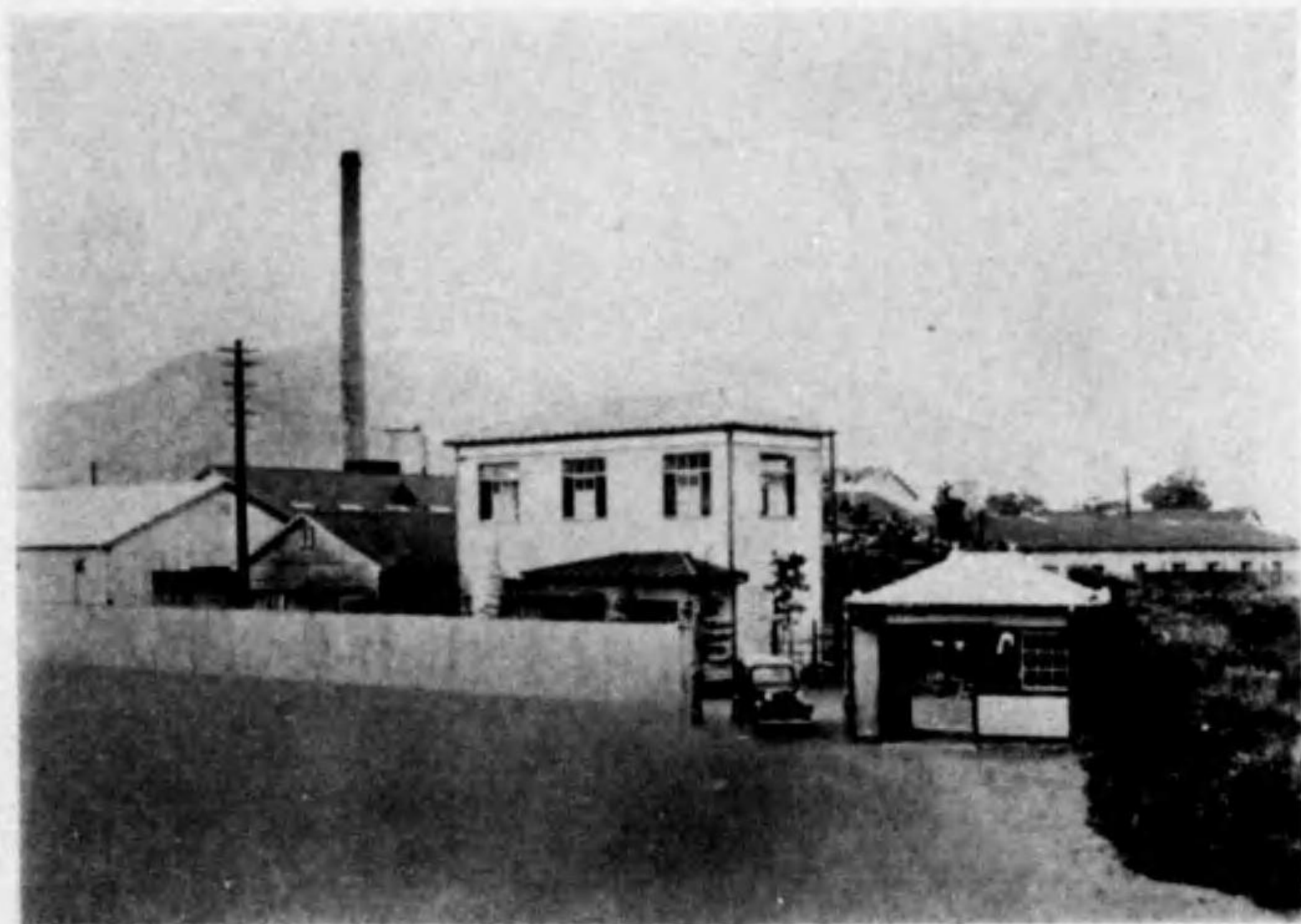
工場 名古屋工場

(所在地 愛知縣海部郡大治村字八ッ屋)

代表者氏名 常務取締役林捨四郎、同河野助一(創立—現在)

### 沿革

同社は昭和十三年十月、當社並に保土谷曹達株式會社、聯合紙器株式會社の三社協同出資に依り、資本金百拾萬圓を以て設立され、次いで同年末、愛知縣海部郡大治村所在の尾張製紙所の工場建家並に設備一切を買收して、翌十四年一月より同所に於て各種パルプ、黄板紙等の製造を開始したが、創業日淺きにも拘らず、出資三社の強力なる援助に依り、製造能力その他逐次目覺しい進展振りを示してゐる。

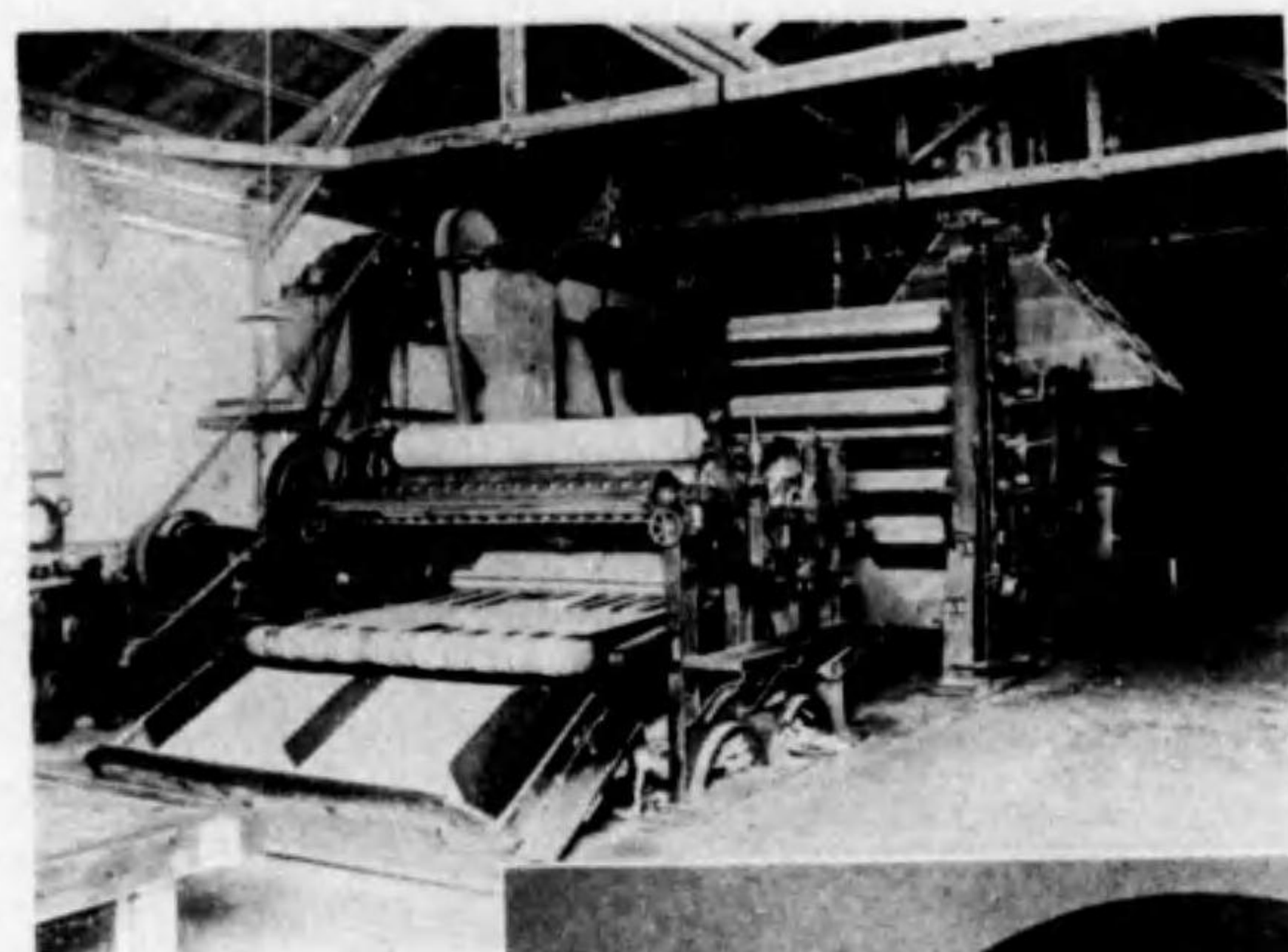


## 安倍川工業株式會社

本社並に工場 静岡市柳町六番地  
 資本金 六拾萬圓（内拂込済參拾參萬七千五百圓）  
 設立年月日 昭和十年九月二十七日  
 營業目的 一般高級洋紙、各種パーチメント、電氣絶縁材料紙  
 通信紙、漿紙等各種和洋紙の製造並に販賣  
 代表者氏名 代表取締役 小塩 孫八（創立）現在）

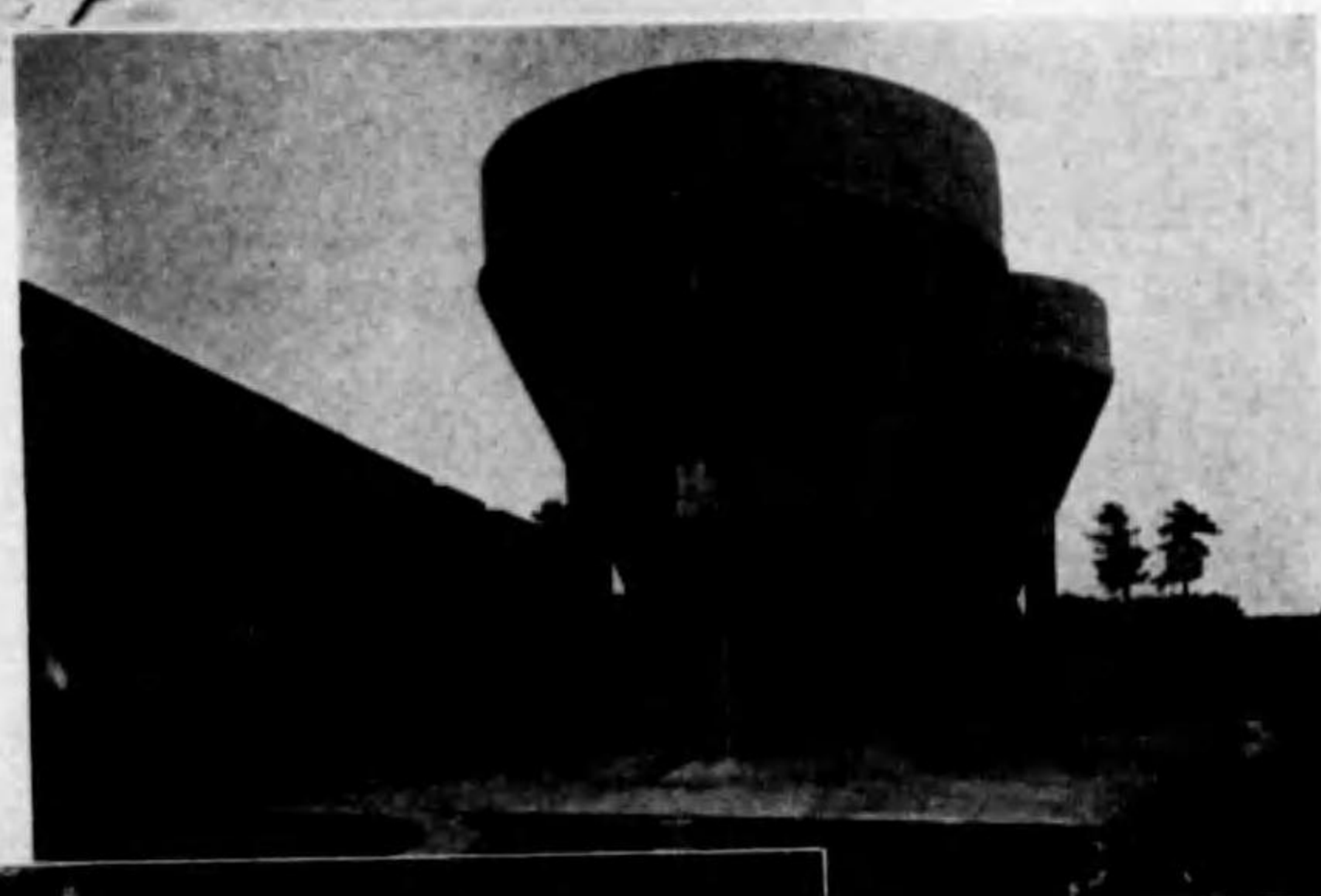
### 沿革

本邦製紙業の歴史は既に六十年を閲し、その間斯業の發達亦大いにみるべきものがあつたが、然し是等の内電氣絶縁紙の製造に關しては、その質に於ても亦その數量に於ても終始國內の需要を満すに足らず、爲に全消費量の大半は輸入に俟たなければならぬ状態であつた。小鹽孫八氏は夙に之が改良研究に苦心を重ねる處あり、その結果紙質生産量共に優れた電氣絶縁材料紙製造の完成をみるに至つたので之が企業化を圖り、昭和十年九月、静岡縣安倍川々畔に地を定めて、資

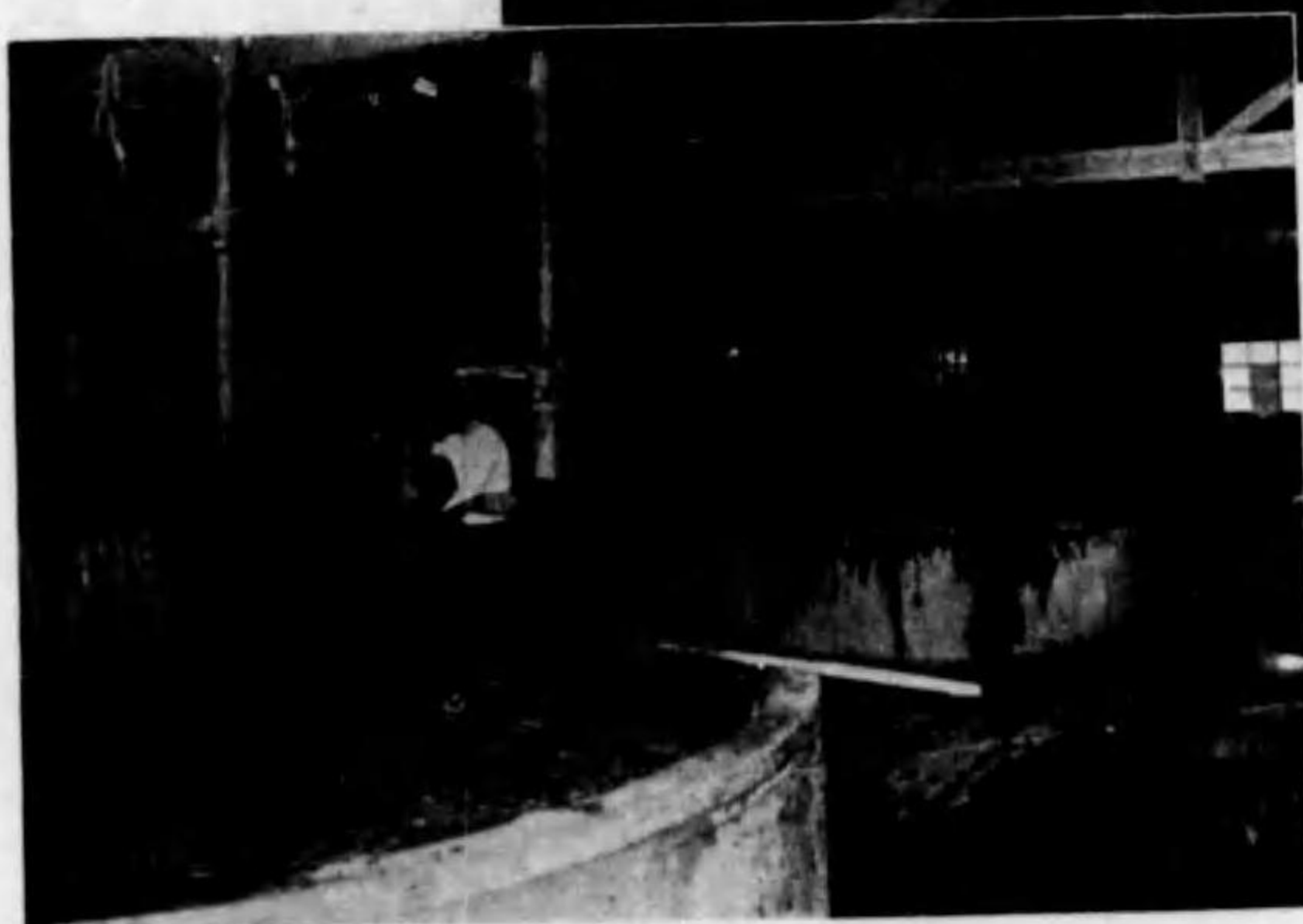


名古屋パルプ工場抄紙部

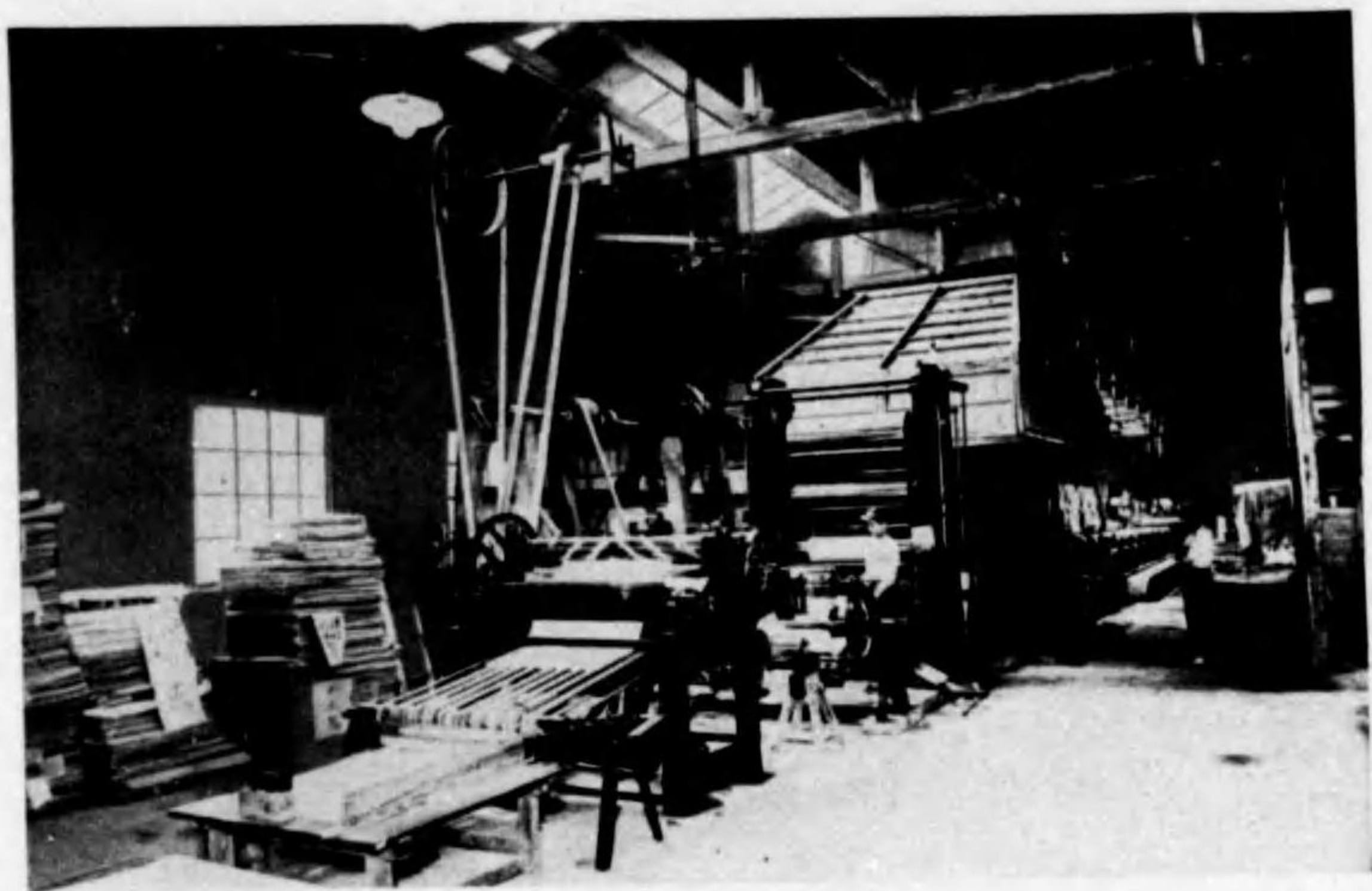
㊦



同工場セツトリング、マシナ



同工場叩解部

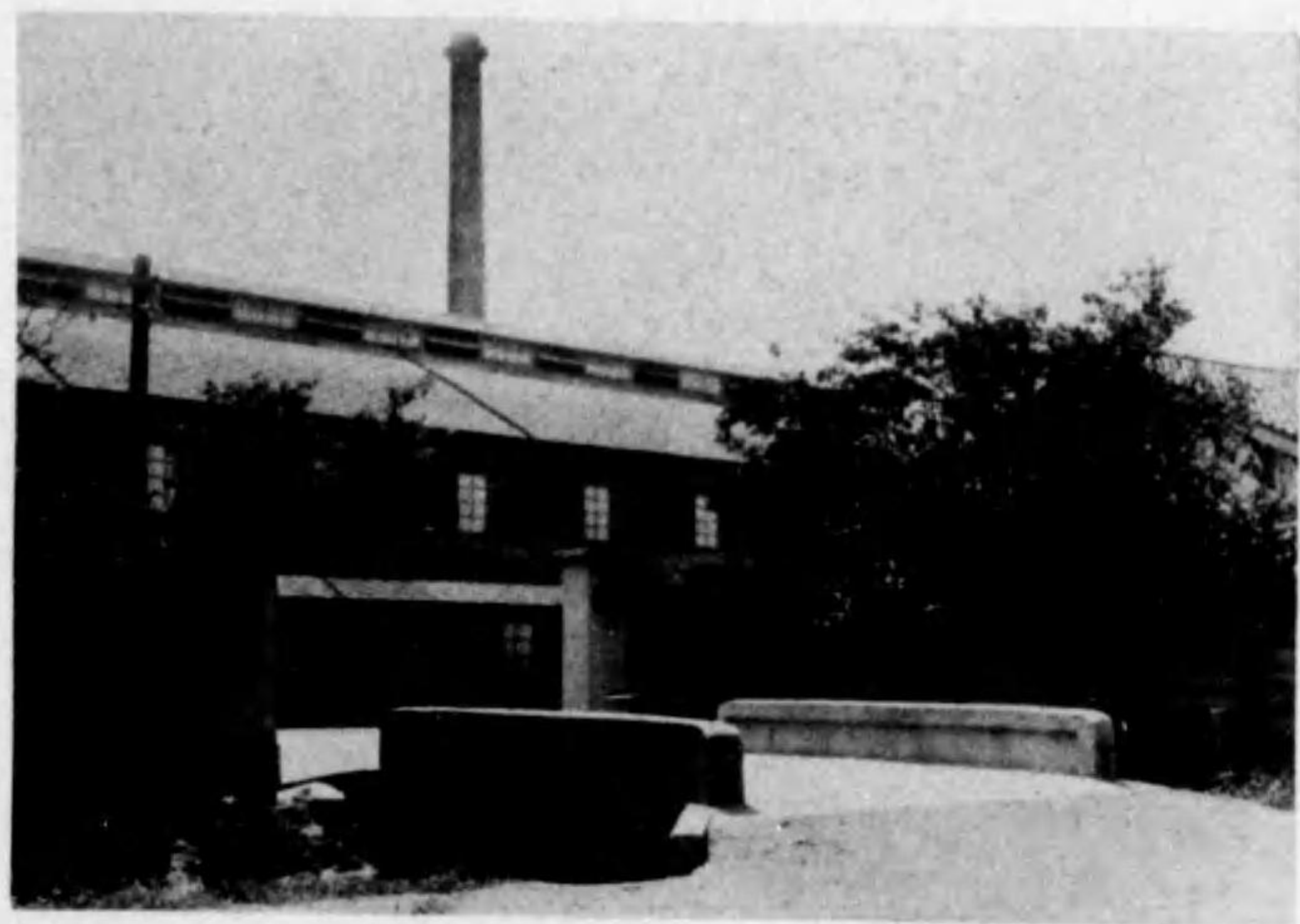


安倍川工業株式會社工場

本金融拾五萬圓を以て同社を創設するに至つた。  
 かくて設立後、一方に於ては近代的工場機械の整備を急ぐ  
 と共に又他面自己の研究のみならず、廣く特殊製紙に關する  
 内外の優秀な技術を容れ、翌十一年六月より本格的操業に着  
 手したが、同年十一月に至り、更に事業の擴張と經營の合理  
 化を圖る爲に當社と協同提携を結んで、資本金參拾五萬圓を  
 増資して六拾萬圓とし、爾來製品の改善に力める傍ら一般高  
 級洋紙、壁紙、通信紙、人造皮革、耐水性紙絲等各種新製品  
 の製造發賣を行ふ等、社業は漸次隆盛に赴くに至つた。殊に  
 是等の内電氣絶縁紙たるフイツシュ・ペーパー並に紡毛用パ  
 ーチメント、人造皮革等は他の追従を許さぬ同社獨特の優良  
 品として多大の歡迎を受けてゐる。

**主要製品**—一般高級洋紙、特殊高級洋紙、電氣絶縁材料紙（フイツシュ・ペーパー、レッドロープ・ペーパー、クラフト・ケープル紙、マニラ・ケープル紙）、通信紙（現字紙、鑽孔紙）、ペーパライト原紙、パーチメント原紙、各種パーチメント、壁紙、人造皮革、耐水性紙絲等

## 東洋耐火煉瓦株式會社



東洋耐火煉瓦株式會社刈谷工場

**本社所在地** 東京市麹町區大手町二丁目二番地  
 （日清生命館内）

**資本金** 參拾萬圓（全額拂込済）

**設立年月日** 大正七年五月八日

**營業目的** 耐火煉瓦、裝飾煉瓦、其他各種煉瓦並に耐火物製品の製造並に販賣及び耐火工業用原料の採掘販賣

**工場其他**

刈谷工場（愛知縣碧海郡刈谷町字山屋敷五番地）

東京工場（東京市深川區千石町一丁目三番地）

**主要原料採掘所**

粘土採掘所 愛知縣西加茂郡猿投村字西枝下

蠟石採掘所 朝鮮慶尙南道密陽邑衙北山

**歴代社長名**

社長渡邊勝三郎（設立當初—大正一〇・八）—專務取締役太田半  
 六（大正一〇・九—同二三・一〇）—社長神谷傳兵衛（大正一  
 三・一〇—昭和一一・一〇）—專務取締役細淵修三（昭和一一・  
 一〇—同二三・五）—專務取締役可兒信夫（昭和二三・六—  
 現在）

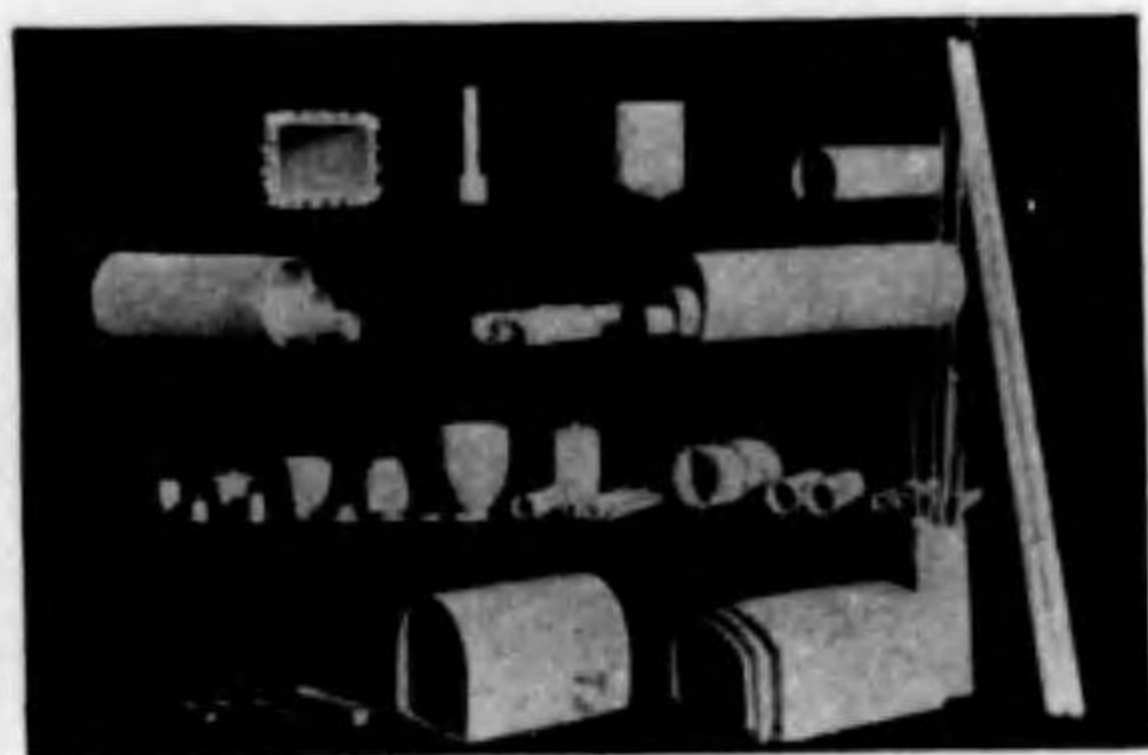




東洋耐火煉瓦株式会社S・M・製品製作工場の一部

## 沿革

大正の初期に於ける本邦耐火煉瓦製造界は、各種工業の簇出に伴ひその需要は累年増加せるにも拘らず、業者は僅かに品川白煉瓦株式会社その他一二を數へるのみで、国内消費さへ充分に満すことが出来ず、加ふるに歐洲大戰勃發以降は輸入の杜絶等により供給不足の度は益々深刻化する状態であつた。茲に於て初代神谷傳兵衛氏は、當時之が供給過少に最も惱まされてゐた東京瓦斯株式会社々長久米良作氏並に渡邊勝三郎氏（後の同社々長）の兩氏と謀つて、大正七年五月資本金百萬圓を以て同社を設立し、愛知縣碧海郡刈谷驛の近傍に地所約四千坪を購入して大煉瓦工場を設立したのである。而して當初は製造品目もシャモット質輕量耐火煉瓦、珪石煉瓦、耐火耐酸煉瓦等極く少數製品に限られてゐたのであるが、後機械設備の増設改善をなすと共に原料も遠く北支、滿洲、朝鮮南部の各地より仰いで漸次各種新製品を製出し、以て一般需要家側の聲望に應へる處があつた。



後昭和四年十二月、二代神谷傳兵衛氏社長在任當時、設立當初の舊債整理の目的を以て資本金を貳拾萬圓に減資して業態の更新を圖り、次いで昭和八年一月には當社の經營に係る同業會社三保舍（東京市深川區千石町一丁目三番地所在）を吸収合併して資本金一を參拾萬圓に増額し、又之と同時に當社と資本的提携を結んで、以後は從來の刈谷工場の外に新たに三保舍工場（現稱東京工場）を加へて同舍獨自の技術に依る高級ボーキサイト煉瓦、S・M耐火製品、電氣絶緣管その他高級耐火物を製造發賣することとし、以て我が國に於ける他同業者の企及し得ぬ最高級品の製造に志し、外國製品の輸入防壁に資すると共に、高温工業の發達に資せんとし一般同業各社との方針を異にして、製造數量の多寡を争ふよりも寧ろ品質の優秀性に重點を置くを以て同社の目的方針とし、此年以來逐次刈谷工場の大改築を行つて機械設備を全部近代式優秀品に置き替へ、新たに研究室並にX線装置を設置する等、技術經營兩方面に於ける改良擴充と且經營當事者の堅實なる營業方針とが相俟つて、社業は逐年著るしい伸展振りを示してゐる。

## 主要製品

高級ボーキサイト煉瓦（G-1印）、ボーキサイト質耐火煉瓦、シャモット質耐火煉瓦、輕量耐火煉瓦、珪石質耐火煉瓦、珪石煉瓦、耐火耐酸煉瓦（H-5印）、SM高級耐火製品（パイロメーターチューブ、電氣爐用耐火物、試金用耐火物その他）、硝子熔融用坩堝及び附屬品、黒鉛坩堝、管狀坩堝、試金用坩堝、電氣絶緣管及び保護管、電氣マッフル爐、耐火度試驗用坩堝、高熱燃焼管、耐火モルタル、木節粘土粉末等。

# 杉林黒鉛満俺株式会社



杉林黒鉛満俺株式会社事務所

本社所在地 東京市品川區南品川五丁目一四七番地  
資本金 五拾萬圓(全額拂込済)

設立年月日 昭和十二年八月三十一日

營業目的 黒鉛満俺鑛石の採掘並にクローム、モリブデンその他各種満俺鑛類の製造並に販賣

## 工場

第一工場(黒鉛加工工場)  
所在地 本社所在地

第二工場(二酸化満俺加工工場)  
所在地 東京市品川區南品川五丁目六〇番地

## 出張所

大阪出張所 大阪市浪速區櫻川町一丁目一五〇九番地  
青森出張所 青森縣西津輕郡深浦町  
久慈出張所 岩手縣久慈町字新町

社長名 取締役社長 杉林健治郎(創立 現在)

## 沿革

同社は、明治三十五年現社長の伯父杉林正七氏が、黒鉛満



同社鑛山採掘状況

俺鑛石の採掘並に製錬を目的として、獨力を以て着手した

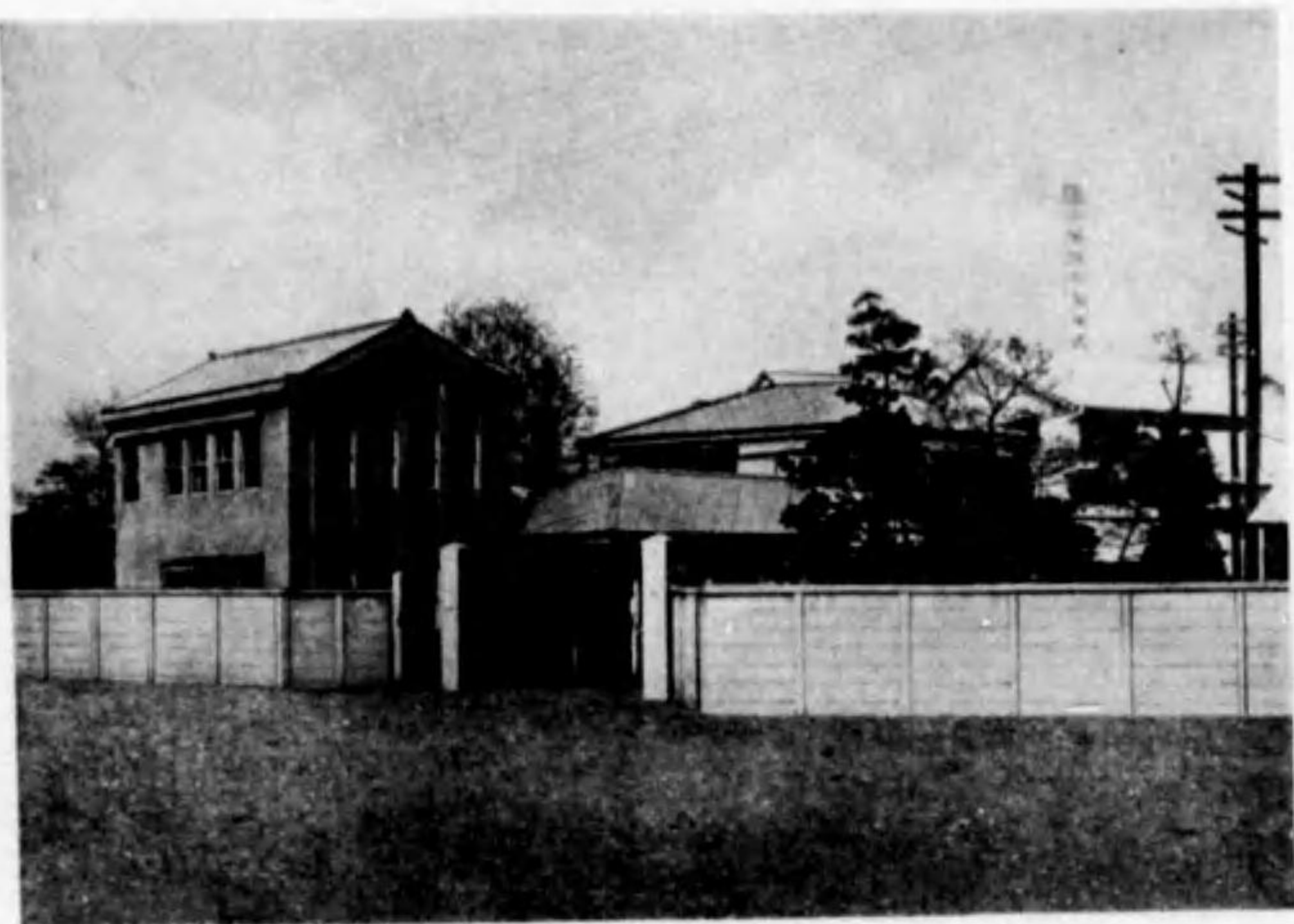
杉林黒鉛満俺製錬所をその前身とする。

當時に於ては黒鉛満俺の需要も尠く、事業も微々として振はなかつたが、日露戦争後漸次世人の知る處となり、事業の發展と共に明治四十四年には組織を改めて資本金拾萬圓の合資會社とし、鑛山も當初の採掘地たる石川縣能登半島以外に青森縣、北海道、岩手、秋田、茨城、群馬、岐阜等の各縣に互つて開發を進め、後昭和五年には資本金を貳

拾五萬圓に増資し、又大阪及び青森、岩手の各縣に出張所を設ける等、經營當事者の多年に互る苦心努力と他面ラヂオの普及に伴ふ電池需用の激増とが兩々相須つて、近來社業は頓に隆盛に赴くに至つた。  
次いで昭和十二年八月、組織を株式會社に改めると同時に當社の山形工場に對する鑛物資源の供給を目的として提携し、資本金も倍額増資して五拾萬圓となつた。

猶現在採掘中の鑛山は北海道後志國に於ける美利河鑛山(砂金鑛)、種川鑛山(二酸化満俺)、太呂鑛山(二酸化満俺)、中歌鑛山(二酸化満俺)、膽振國稻穂鑛山(金屬満俺)等を始め青森縣の湯ノ澤鑛山、松山澤鑛山並に岩手縣の高松鑛山、安家鑛山等の金屬満俺、秋田の白岩鑛山(二酸化並に金屬満俺)福島の德澤鑛山(金屬満俺)栃木の朝日鑛山(炭酸満俺)同秋山鑛山(二酸化満俺)、岐阜の菅谷鑛山(二酸化満俺)、京都府の大城山鑛山(炭酸満俺、金屬満俺)丁子鑛山(二酸化満俺)其他山口縣等の各府縣に互り、その數も五十の多きによつてゐる。

## 特殊合金株式會社



特殊合金株式會社本社

本社並に工場 東京市王子區神谷町二丁目二七〇番地  
 資本金 四百萬圓  
 設立年月日 大正十五年一月三十日  
 營業科目 各種合金材料  
 歷代社長名 取締役社長 齋藤恒一（創立—現在）

### 沿革

同社は、大正十五年一月三十日創立以來、銅及び各種合金材料の製造を行つてゐたが、昭和十一年十二月、當社及び株式會社芝浦製作所の兩社は自社材料自給の建前よとして之が經營に參與した。  
 又昭和十四年四月には、資本金百萬圓を一舉に四百萬圓に増資して生産の擴充を圖つたが、目下時局の進展と共に業績は好況の一途を續けてゐる。

## 株式會社竹本電機計器製作所



株式會社竹本電機計器製作所

本社並に工場 大阪市東淀川區田川通六丁目一九番地  
 資本金 五拾萬圓（拂込済四拾壹萬圓）  
 設立年月日 昭和十二年九月六日  
 營業科目 精密携帯用電氣計器並に測定器具、配電盤用電氣計器及び測定器具、航空機用電氣計器及び器具其他各種配電函及び電磁閉閉器類等の製造並に販賣

### 出張所其他

東京出張所 東京市神田區花房町六番地  
 東京マツダ販賣株式會社内

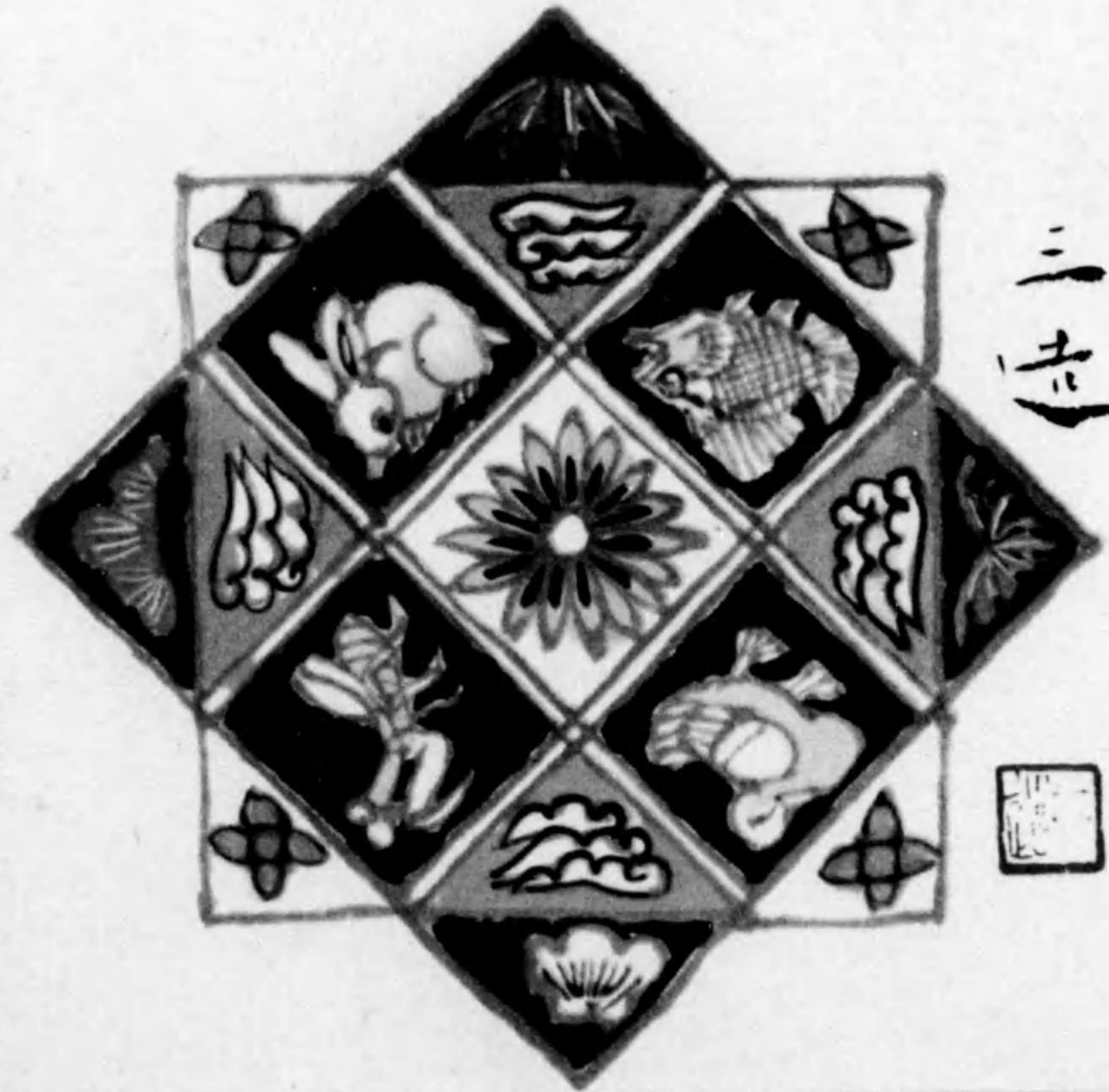
### 代理店

有森商會 佐世保市長尾町三〇番地  
 川名彪雄商店 吳市西愛宕町八七番地  
 佐々木熊之助商店 横須賀市大瀧町 鎌倉銀行ビル内  
 山内榮次商店 京都府東舞鶴市字濱一四〇番地  
 社長名 取締役社長 竹本正則（創立—現在）

### 沿革

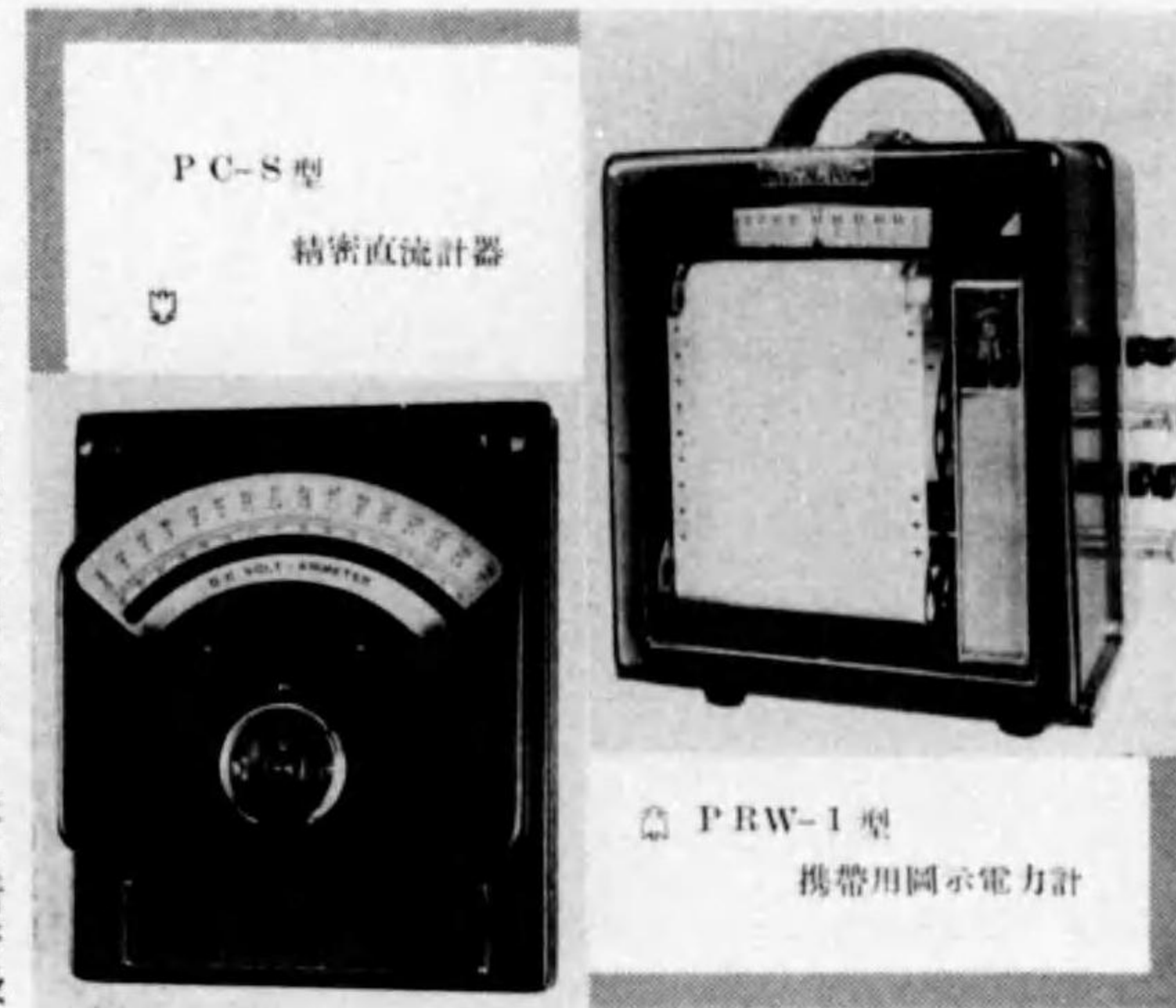
先代竹本正勝氏は、夙に電氣計器及び是等附屬器具の製作に志し、明治三十四年以來、大阪市在住の關西最古の電氣器具製作者として著名な故中村順藏氏に師事して各種電氣器具

遺 補



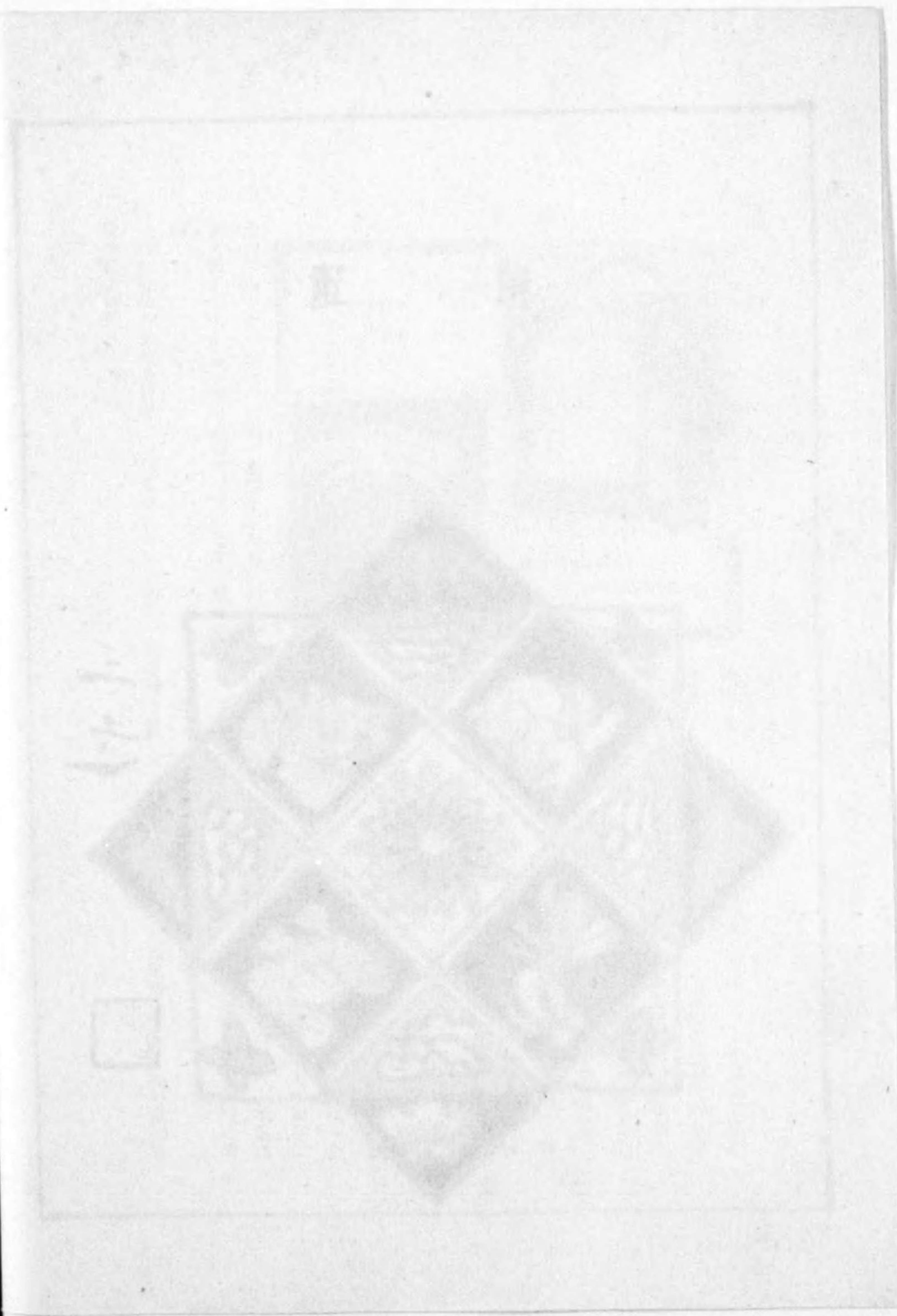
至つてゐるが、最近時は時局の影響を蒙り殊に精密級及び飛行機用電氣計器、測定器具類の受註額が増加し、製造は益々繁忙の度を加へ來つたので、之に應ずるため昭和十四年四月新たに參拾萬圓を加へて資本總額を五拾萬圓に増資した。

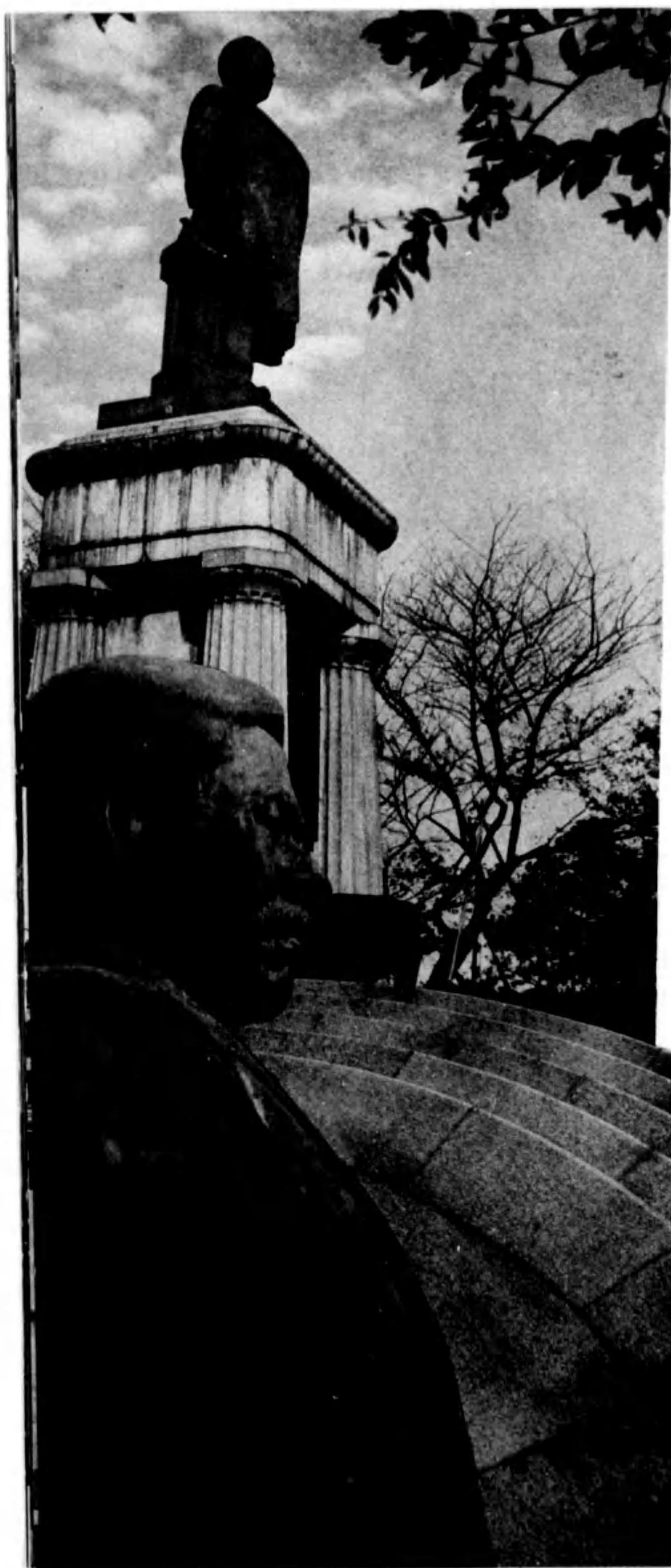
尙ほ製品的主要販賣先は、軍部關係を始め當社、芝浦製作所、富士電機、安川電機、三菱電機等本邦一流の電機製造会社に供給してゐる。



殊に電氣計器類の製作技術を審さに習得し、大正五年大阪市南區瓦屋町二番町に個人經營を以て竹本電機計器製作所を設立して之が製造に従事するに至つた。爾來技術の改善を圖ると共に工場機械の整備に努めた結果、各製品其確實優秀な點に於て漸次需用家側の歡迎を受けるに至り、その後受註高の激増と業績の發展に伴つて、昭和八年九月には現在地に工場を新築移轉して事業の擴張に備へ、又昭和十一年十一月には各種電氣計器の製作につき海軍省指定工場となるに至つた。斯かる事業擴張時に當つて恰も所主竹本正勝氏が死亡し、之に伴ひ其經營組織を變更するに際し豫て同所の優秀なる技術と設備に矚目せる當社及び株式會社芝浦製作所の兩社は之と協同提携を行ふに至り、昭和十二年九月資本金貳拾萬圓（全額拂込済）の株式會社に改め、事業をその儘繼承して現在に

描点内構



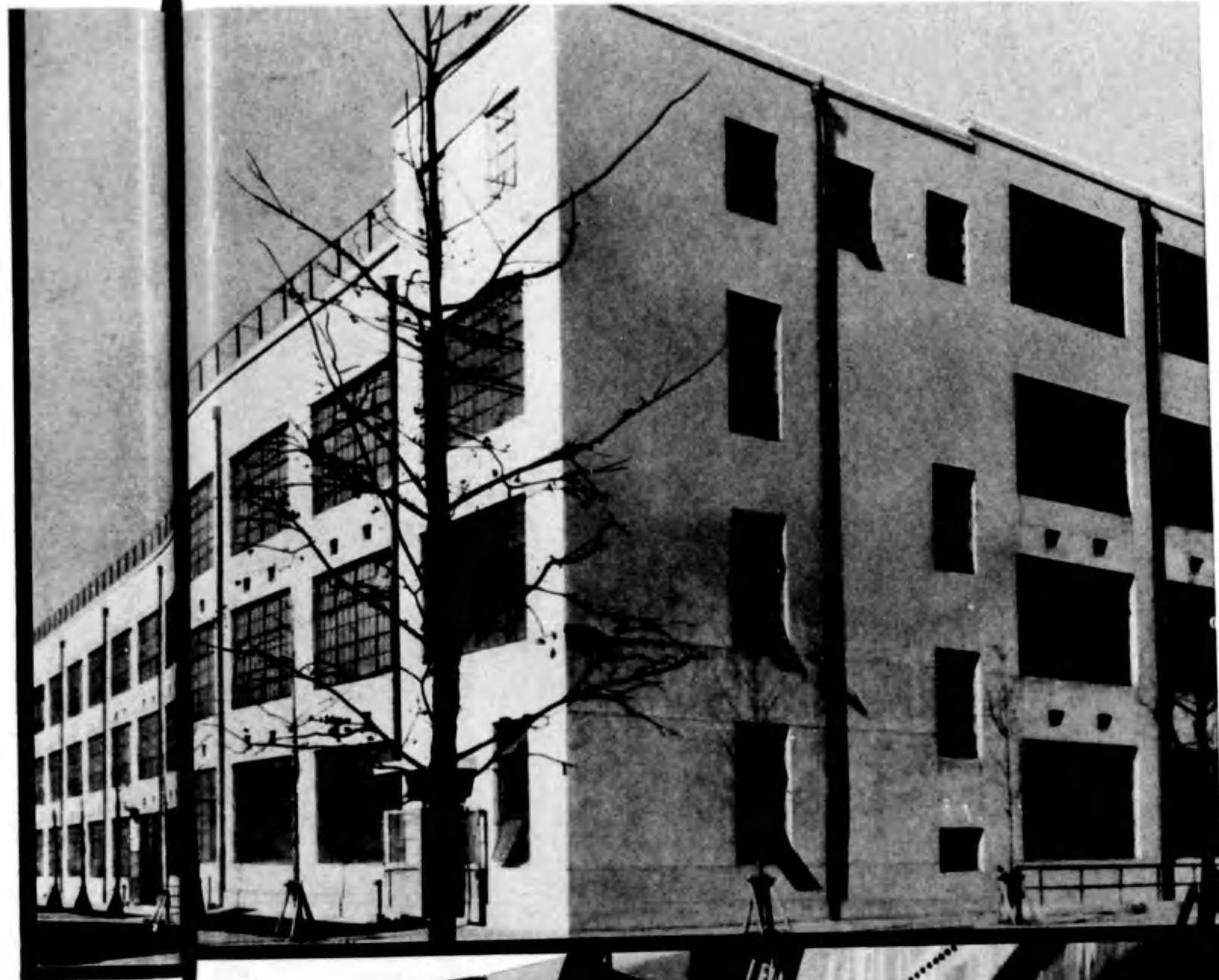
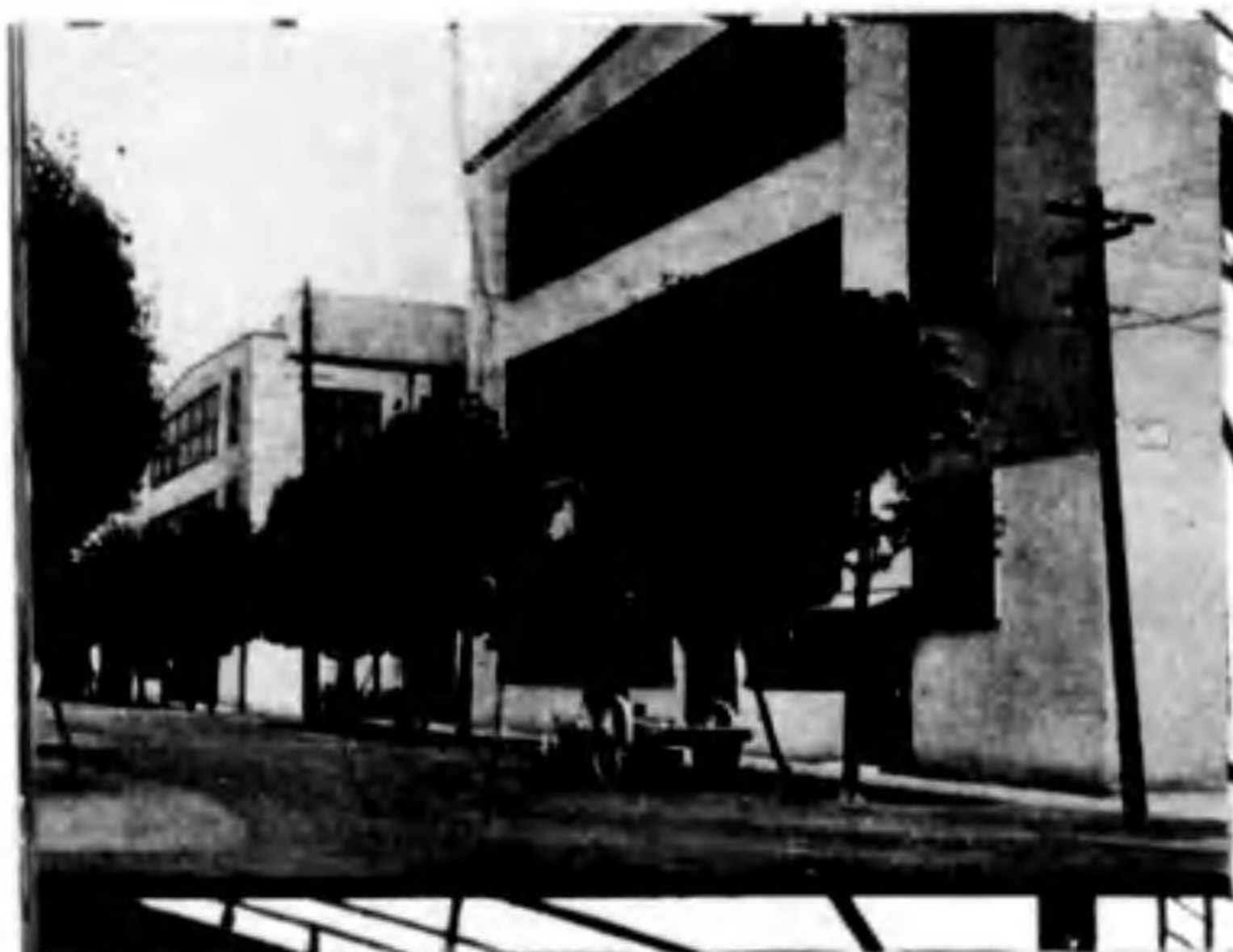


# 構内點描

## I

孫國博士銅像  
新莊社長胸像  
事務所前面

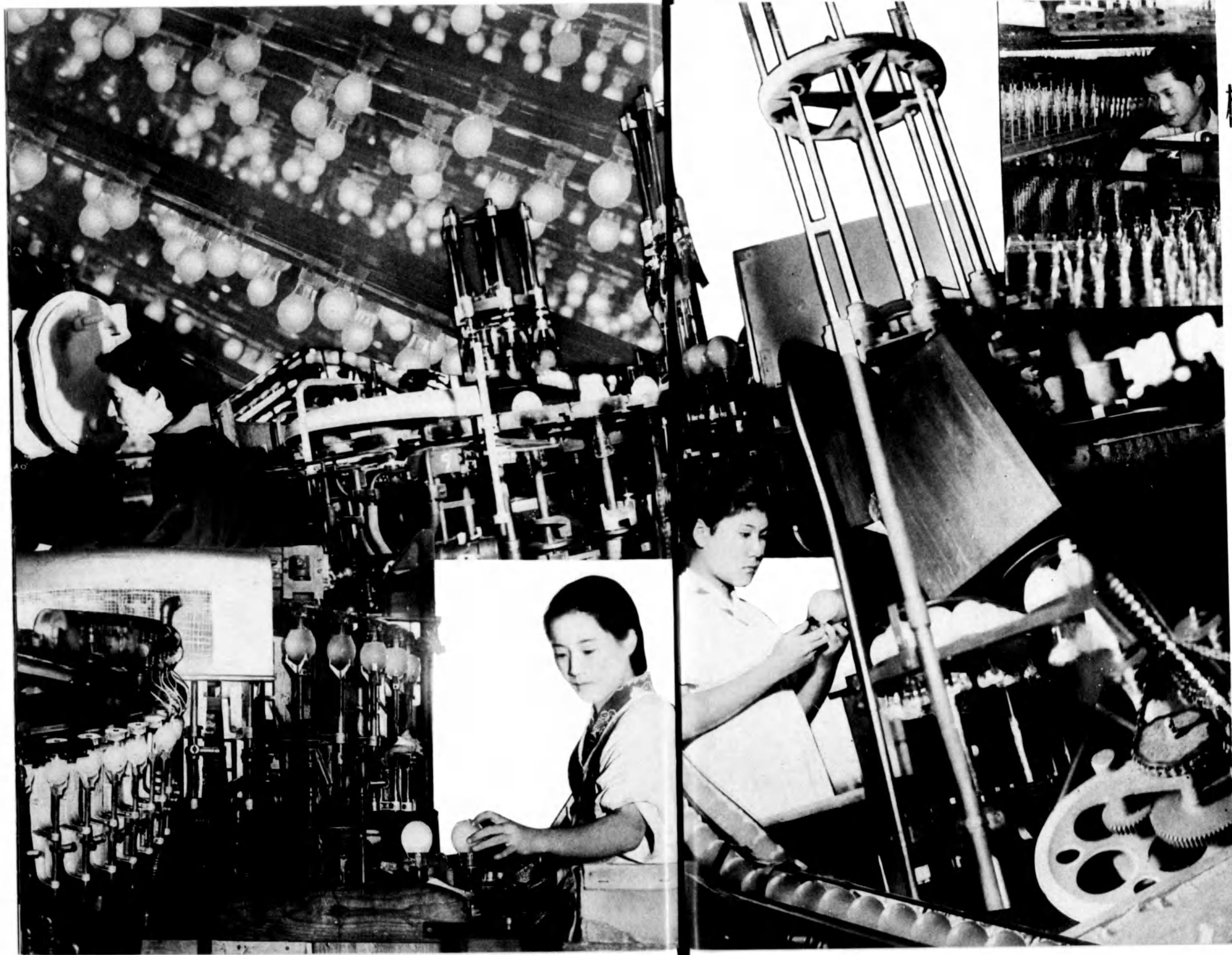




# 構内點描

## II

瓦斯工場外部  
電球工場  
伸線工場  
小型電球工場  
醫療機器工場  
研究所試作工場

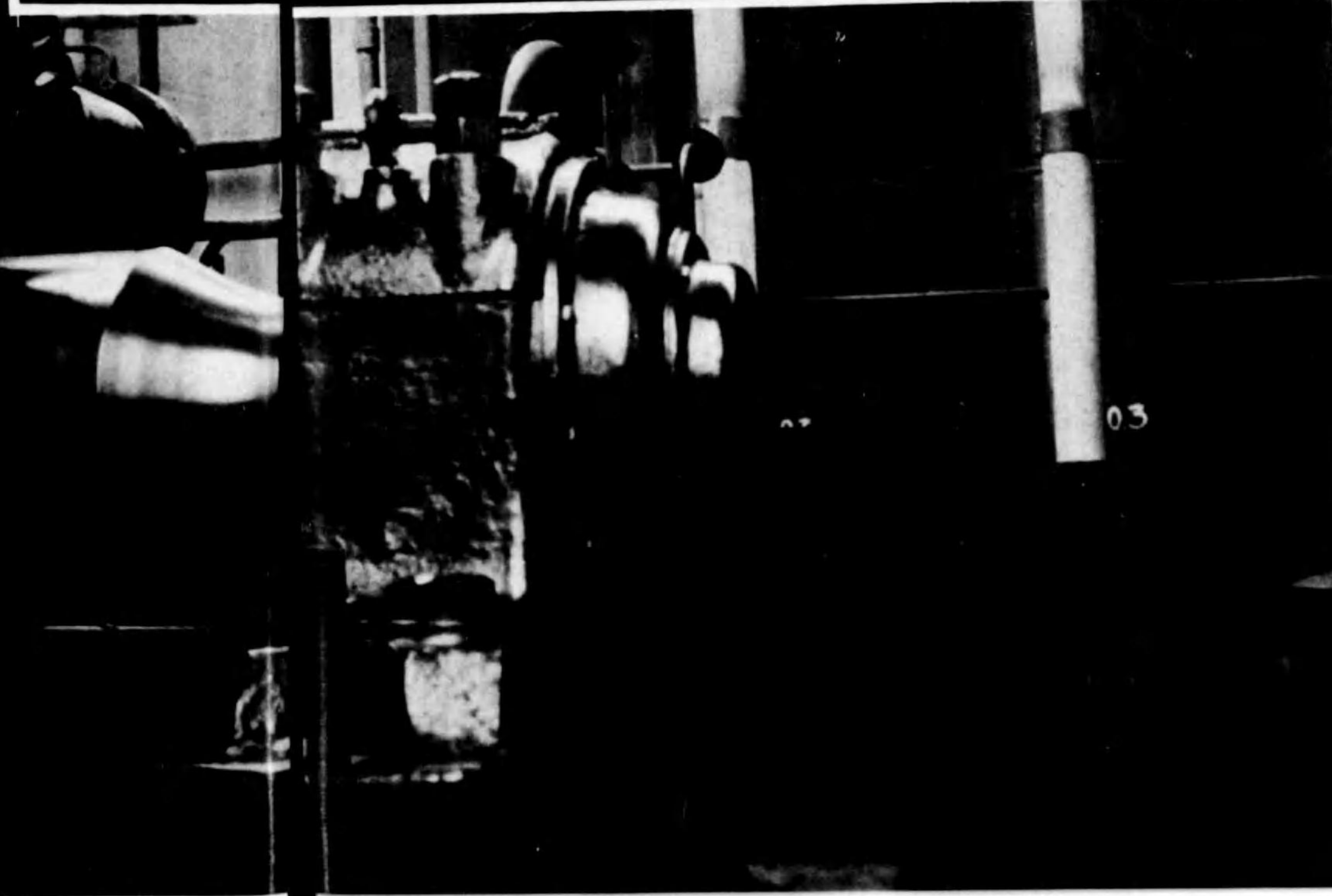
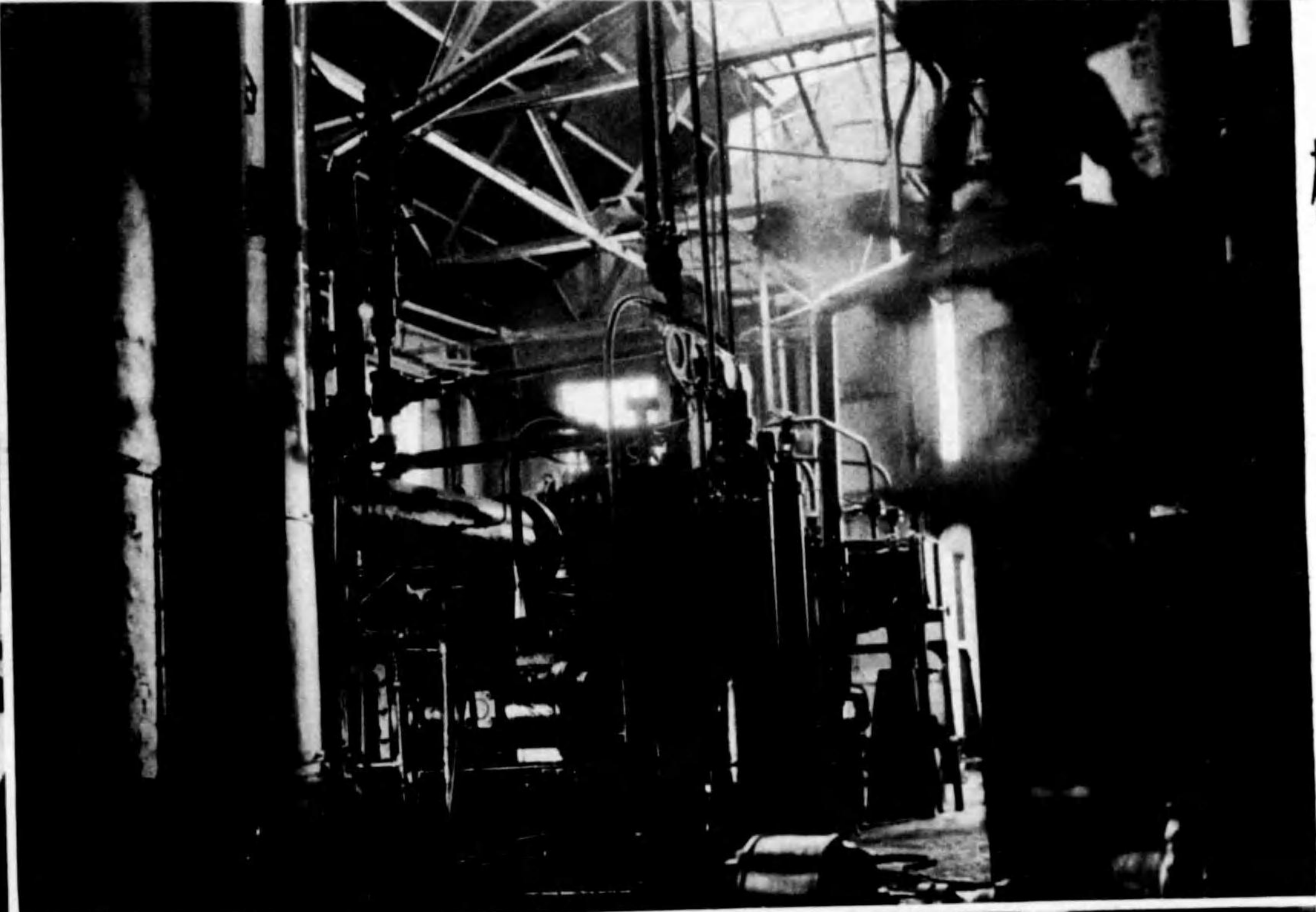


構内點描

Ⅲ

ランプの出来る迄

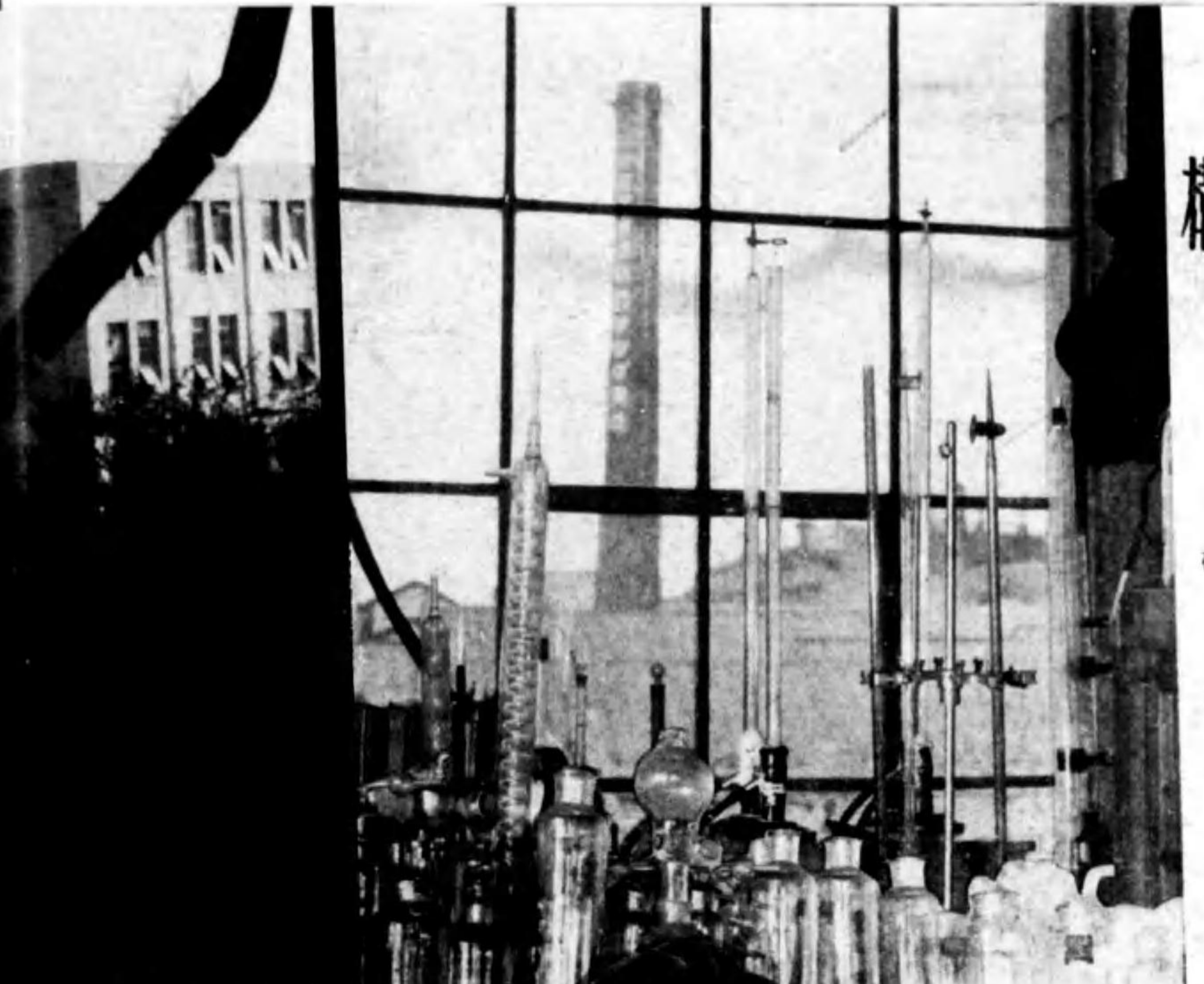




構内點描

Ⅲ

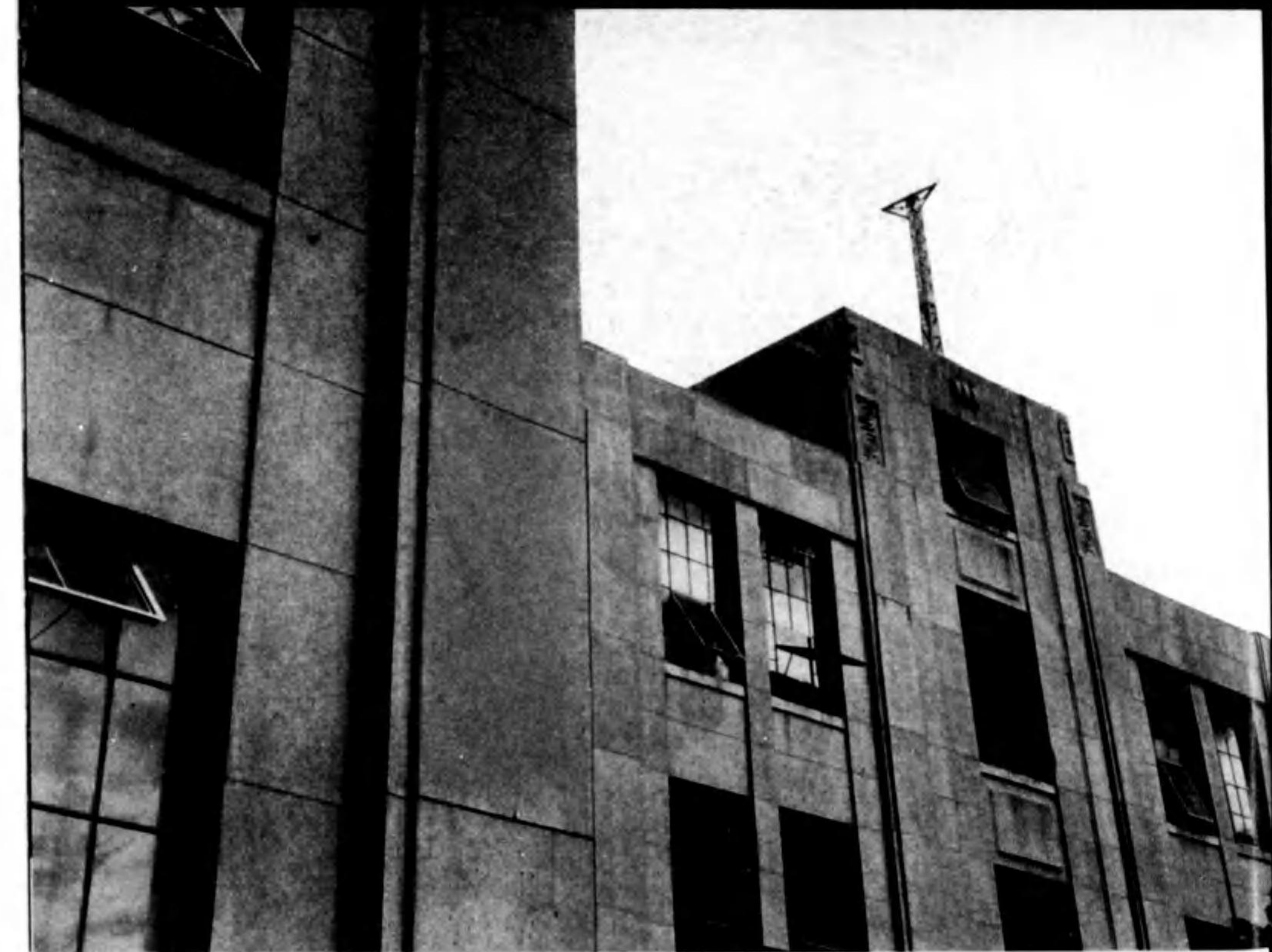
アルゴン瓦斯工場



構内點描

V

研究所にて



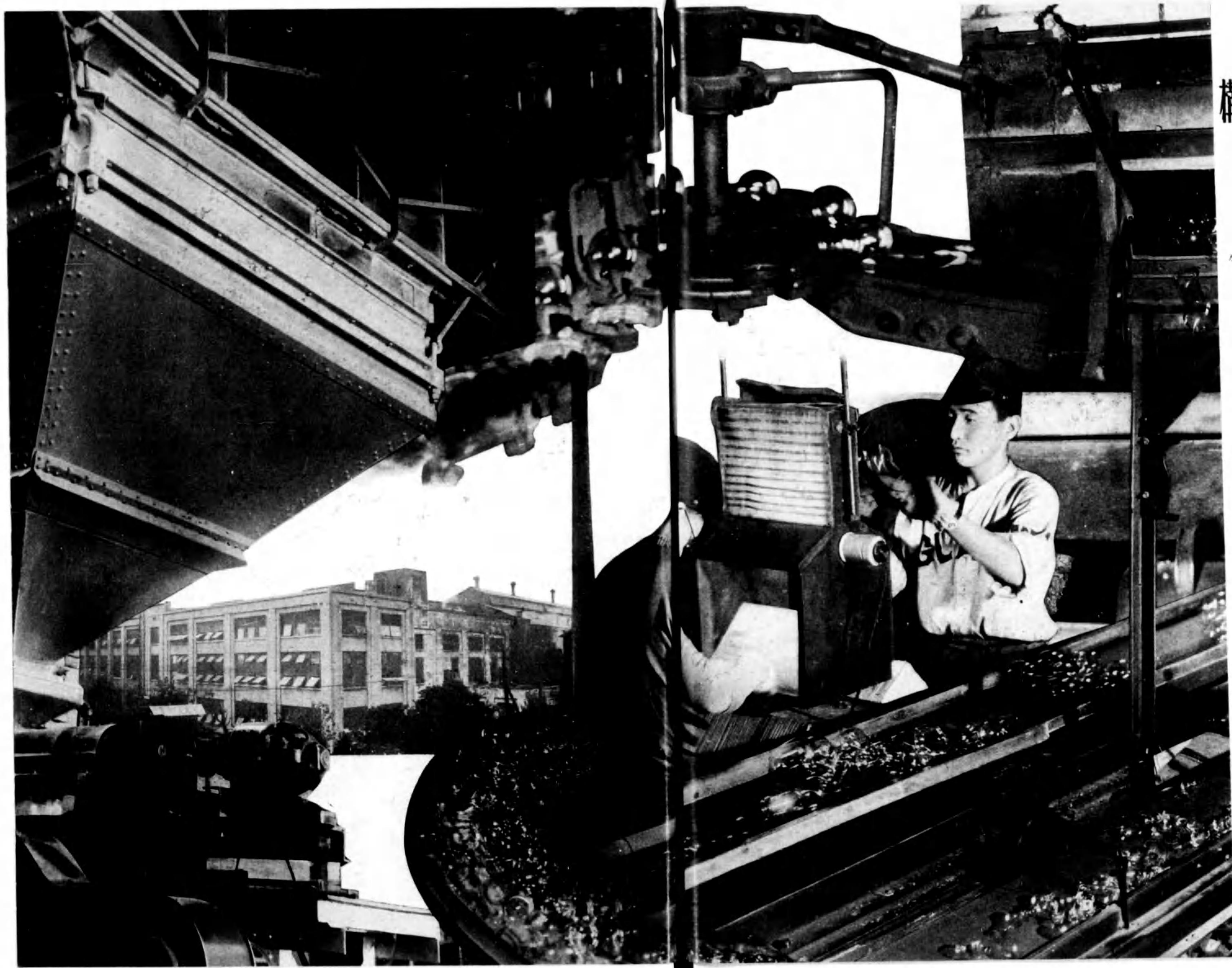


構内點描

VI

真空管の製造

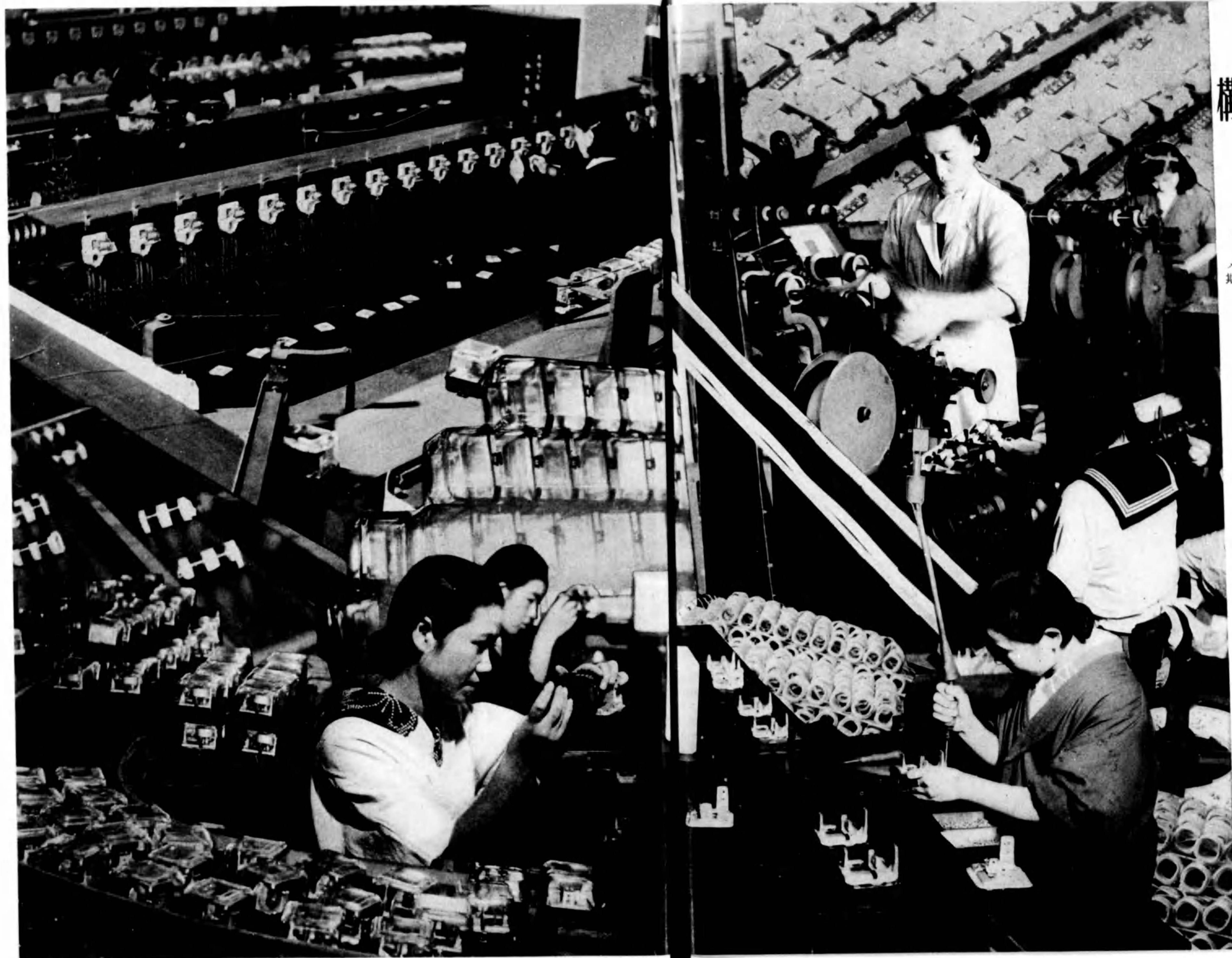




構内點描

VII

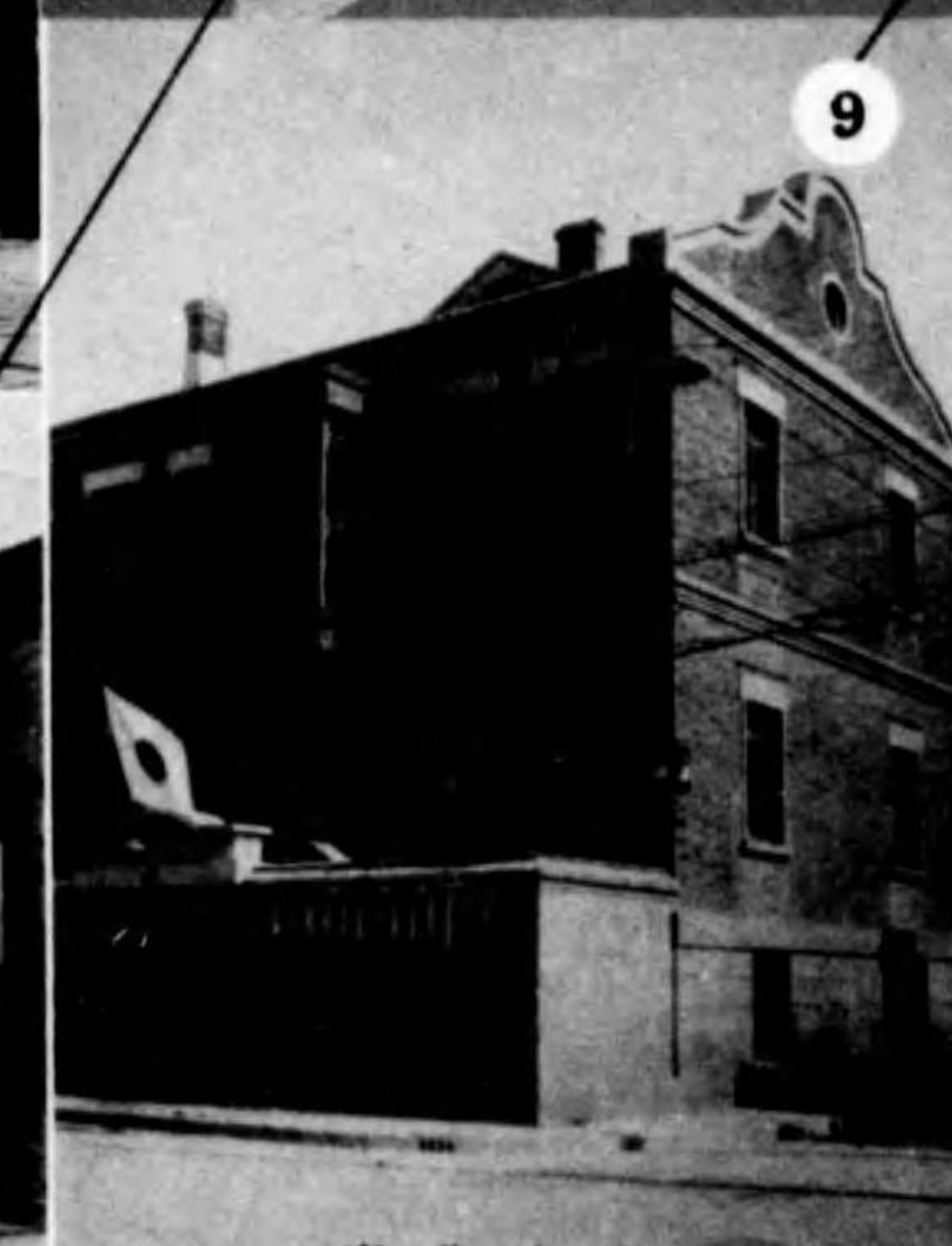
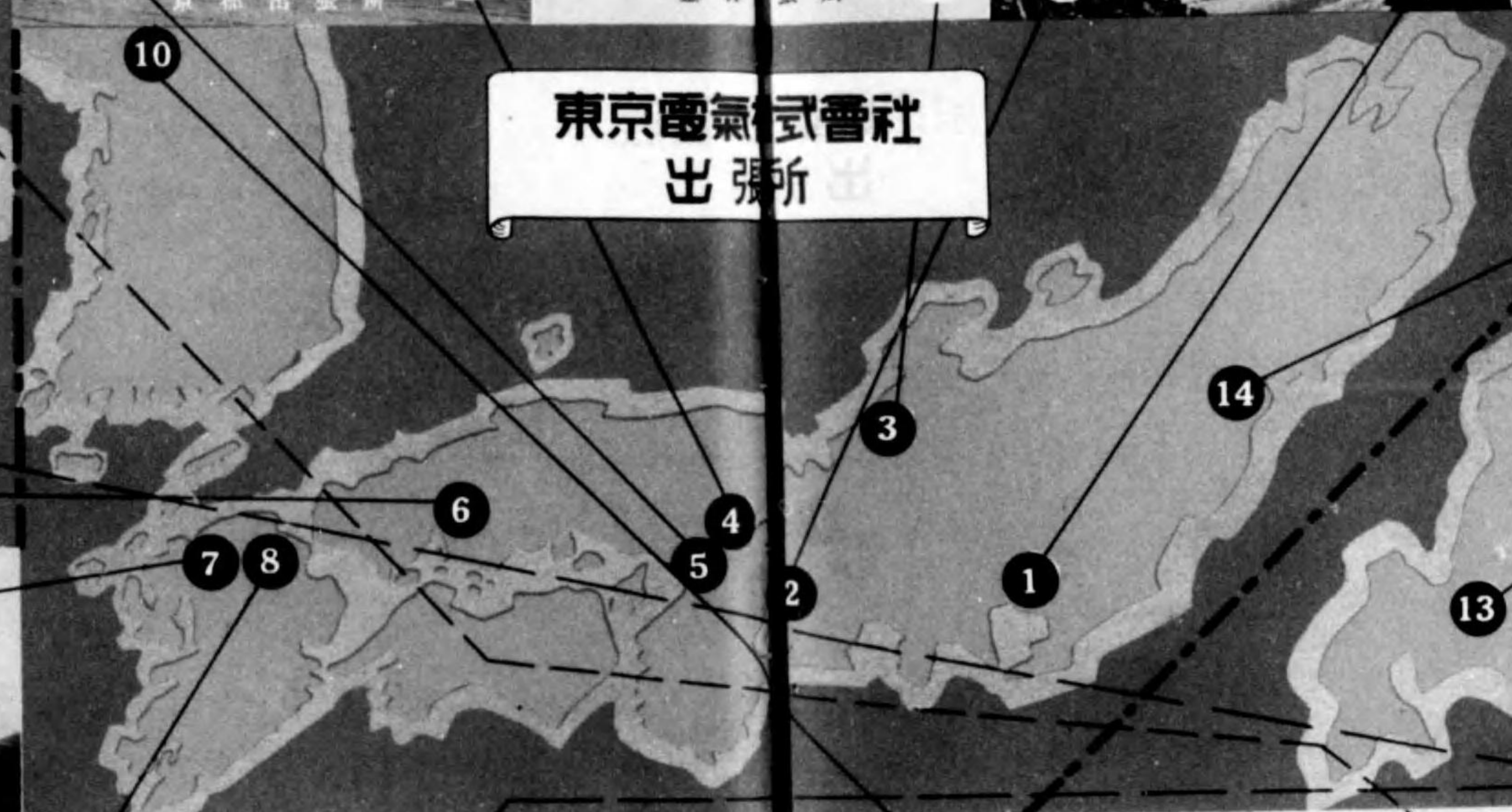
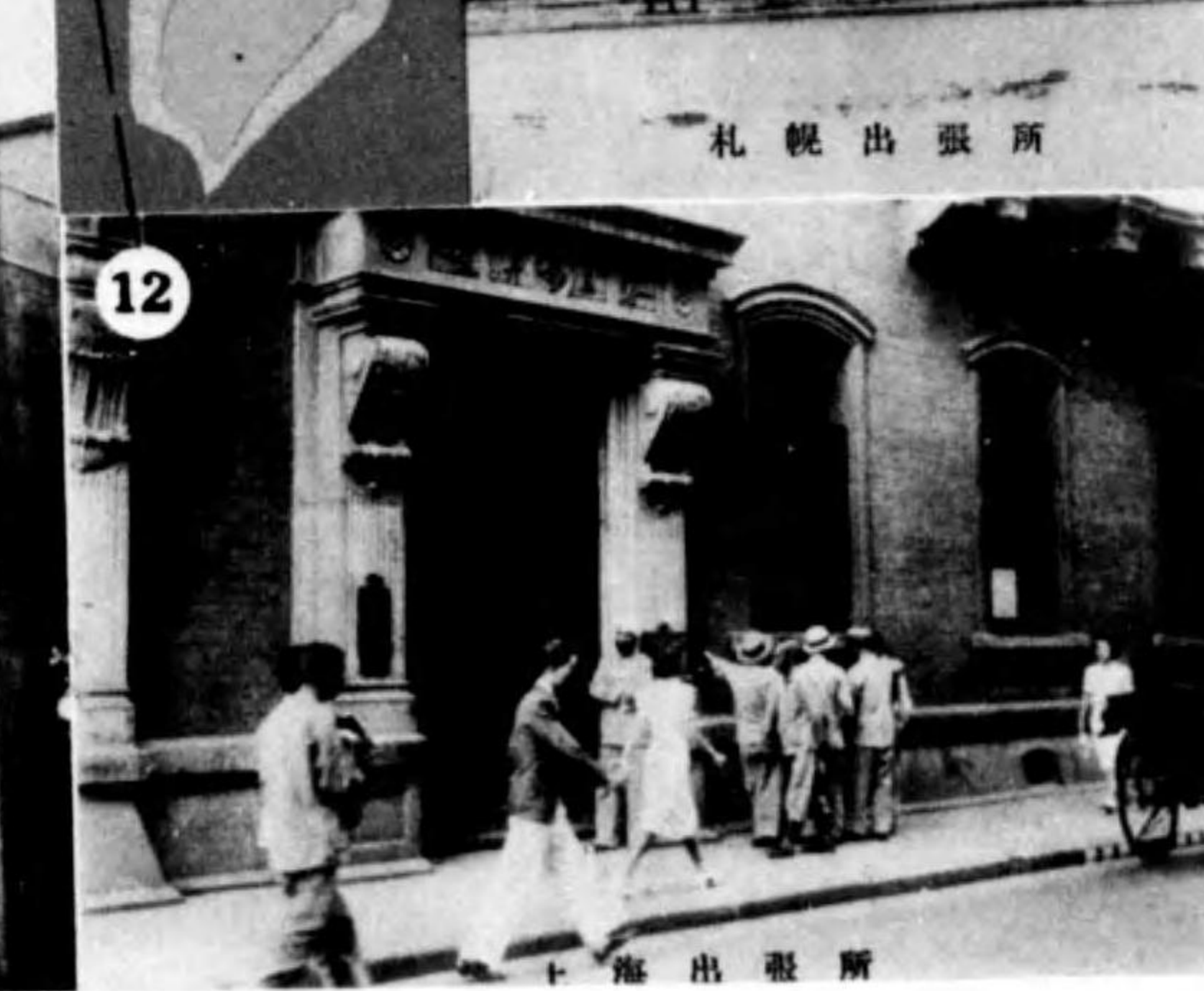
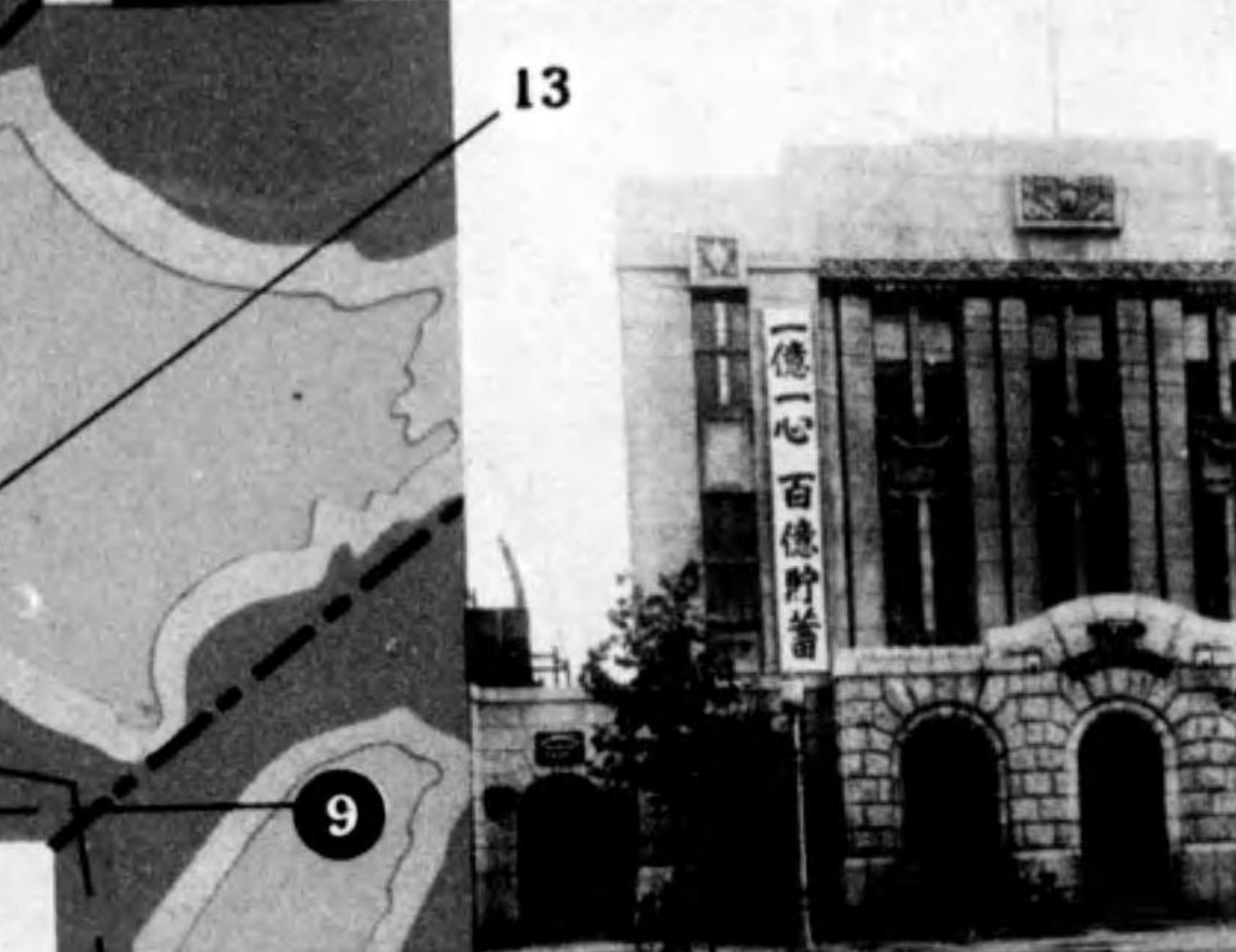
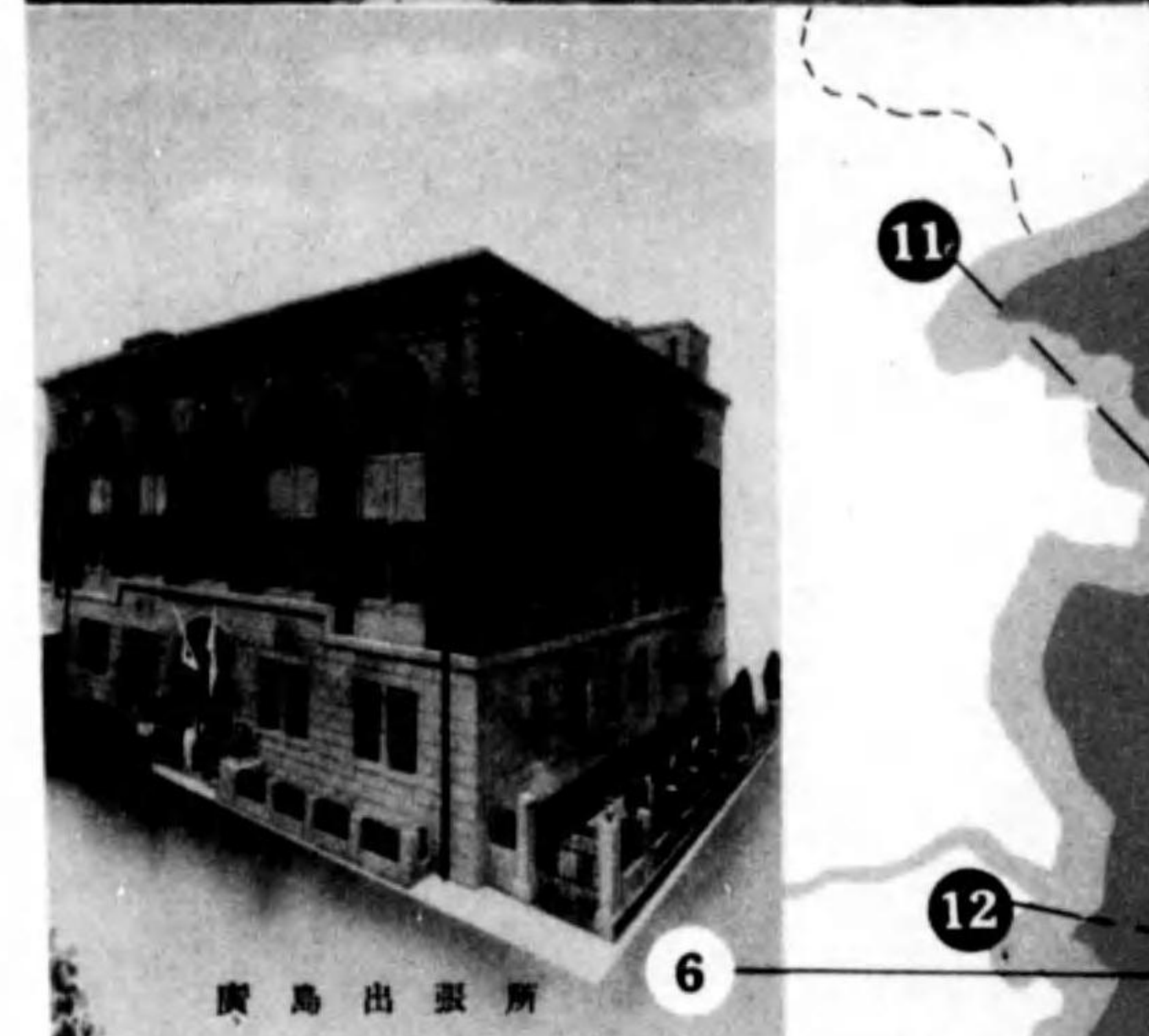
ガラス工場の仕事



構内點描

VIII

メーデルは  
斯くして出来る





子供目時から眼を護れ!

最高標準の良質電球

マツダランプ

宣傳印刷物と  
直營賣店



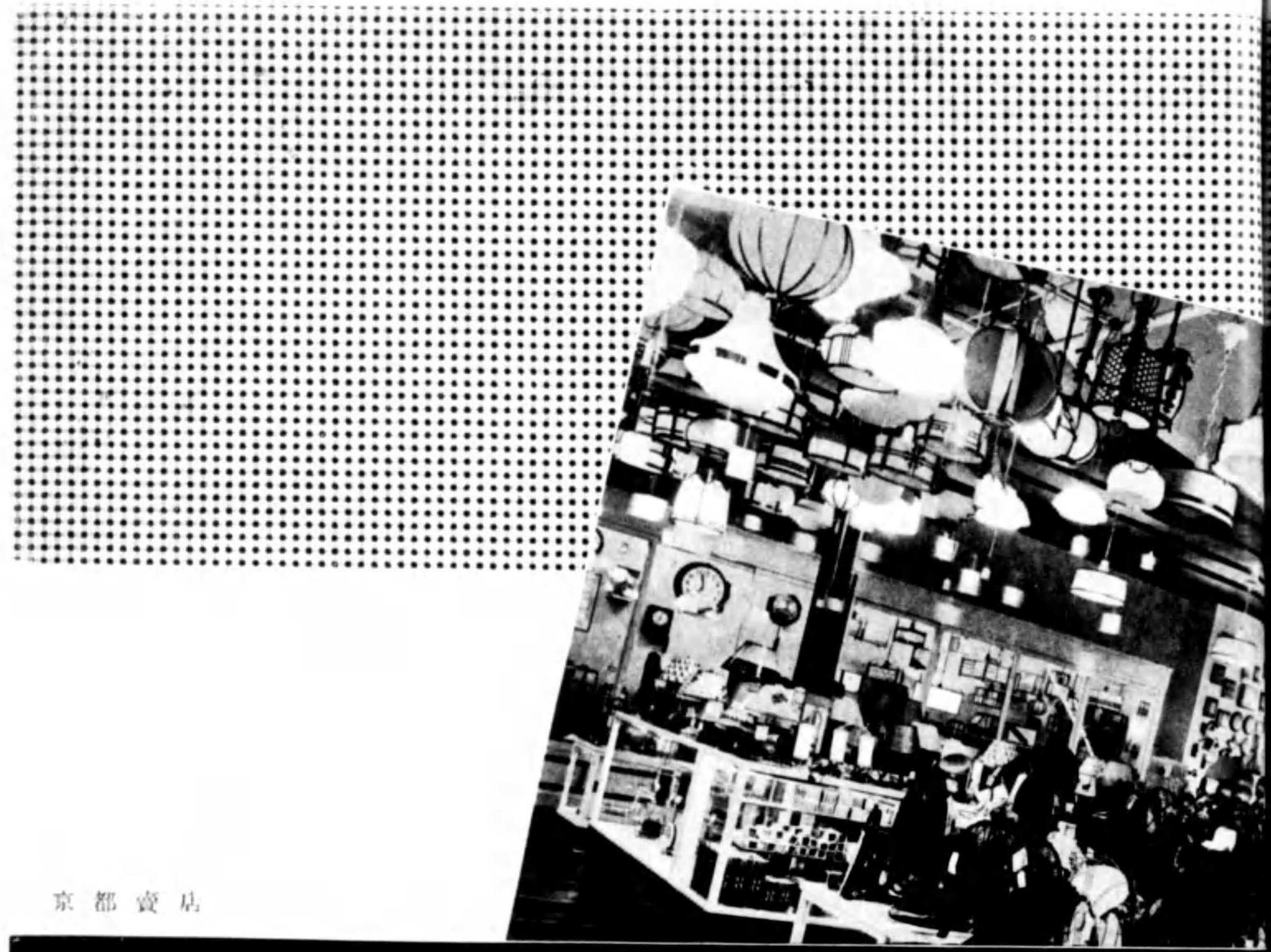


東京 新宿賣店

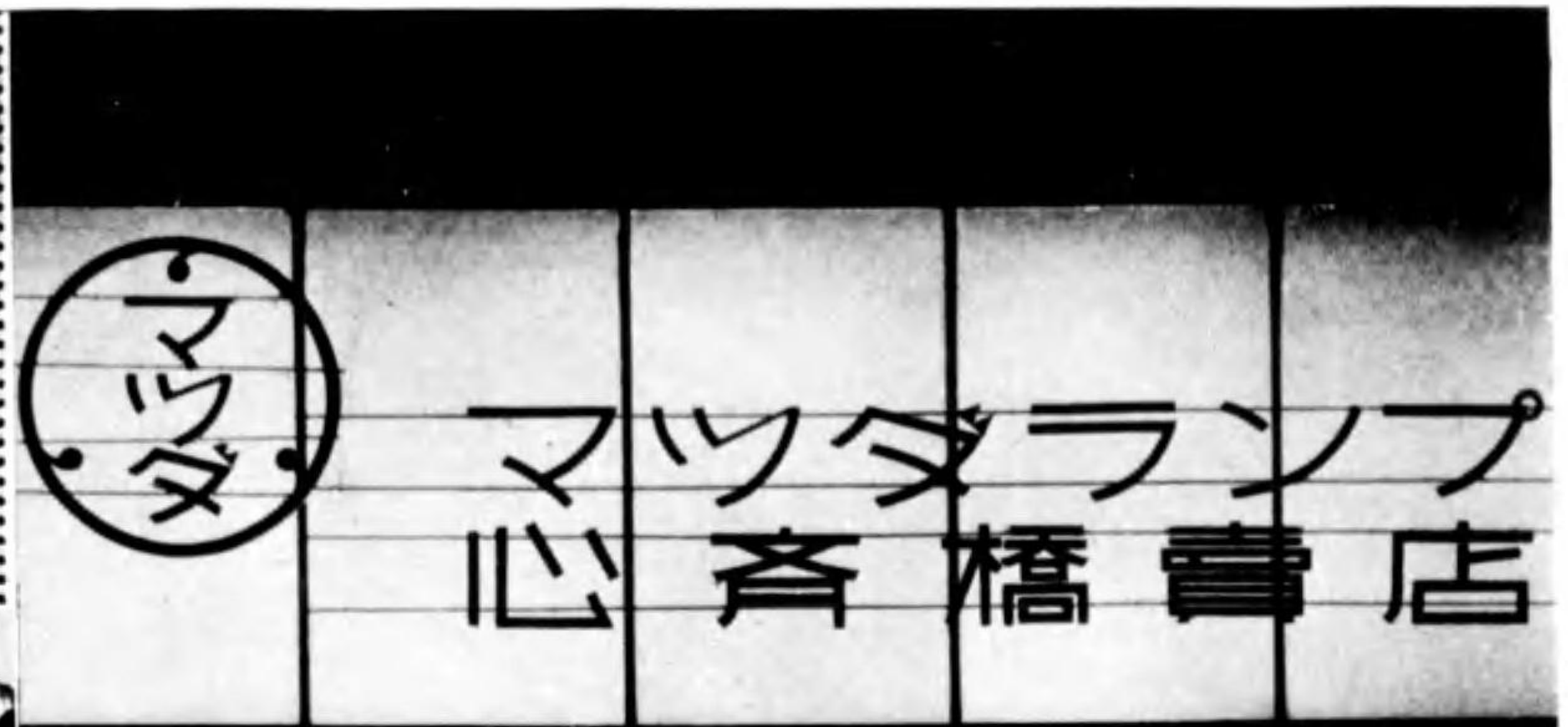


東京 銀座賣店





京都賣店

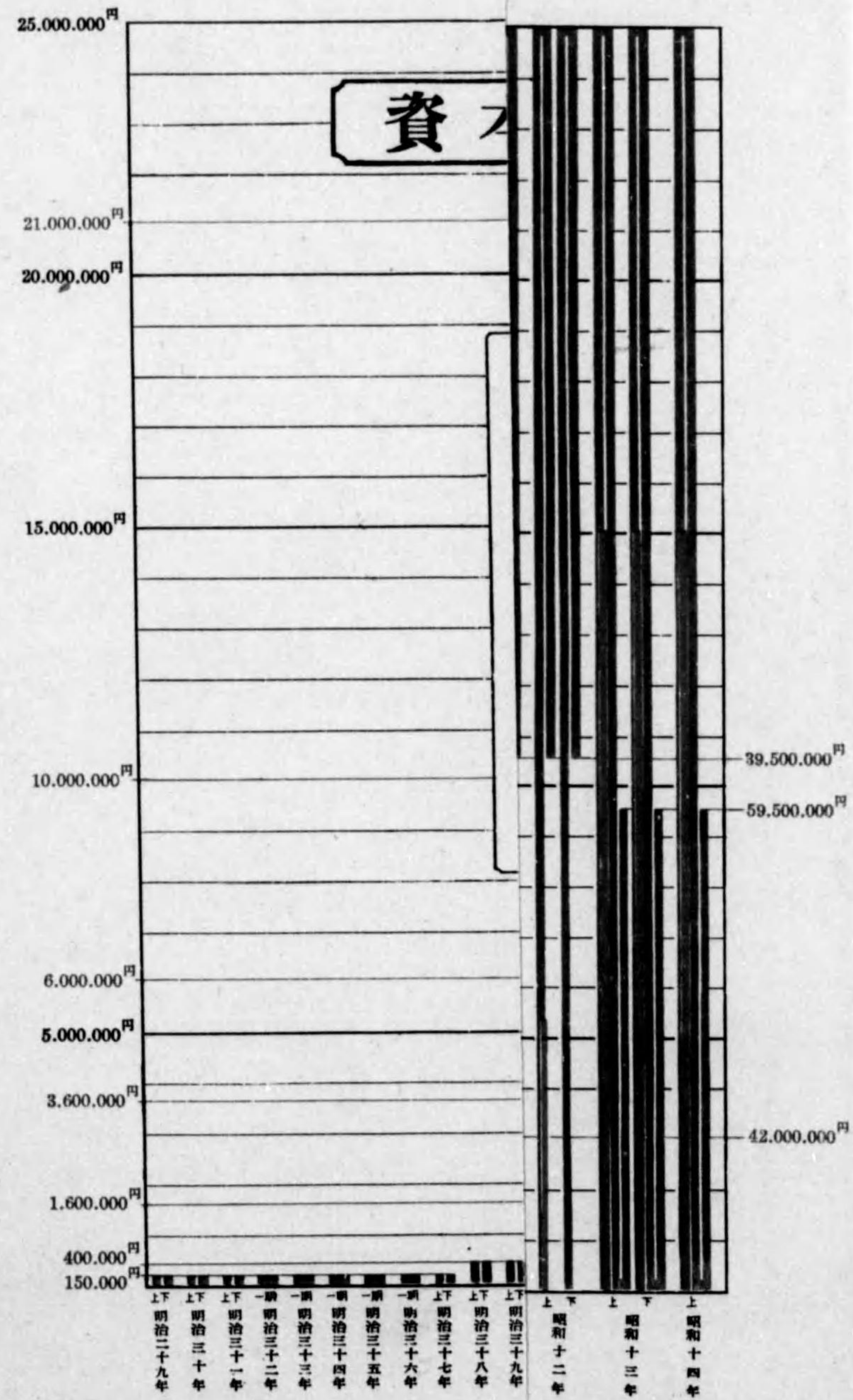


大阪 心齋橋賣店

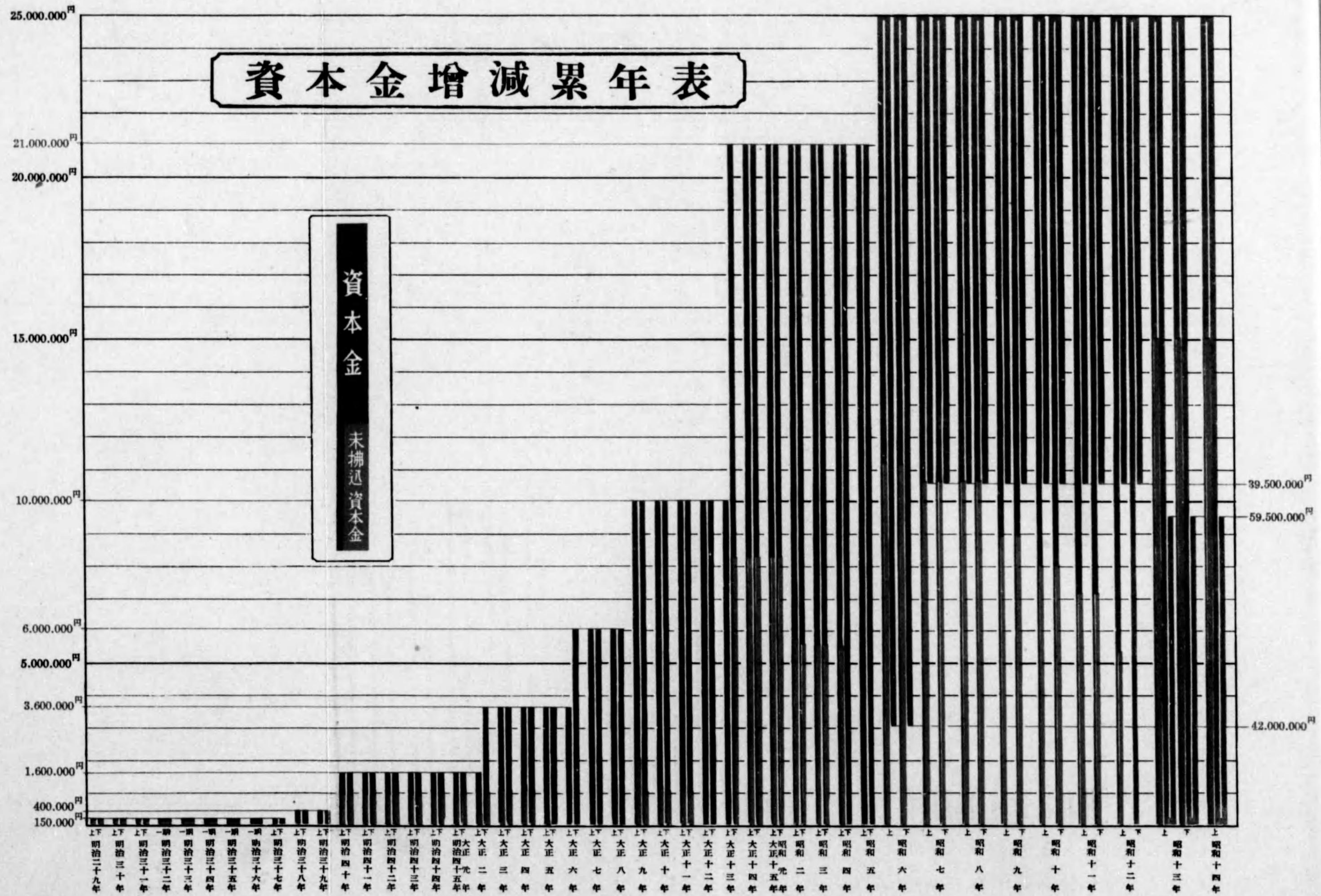


京都賣店内部

圖  
表



# 資本金増減累年表



# 電球販賣高累年比較表

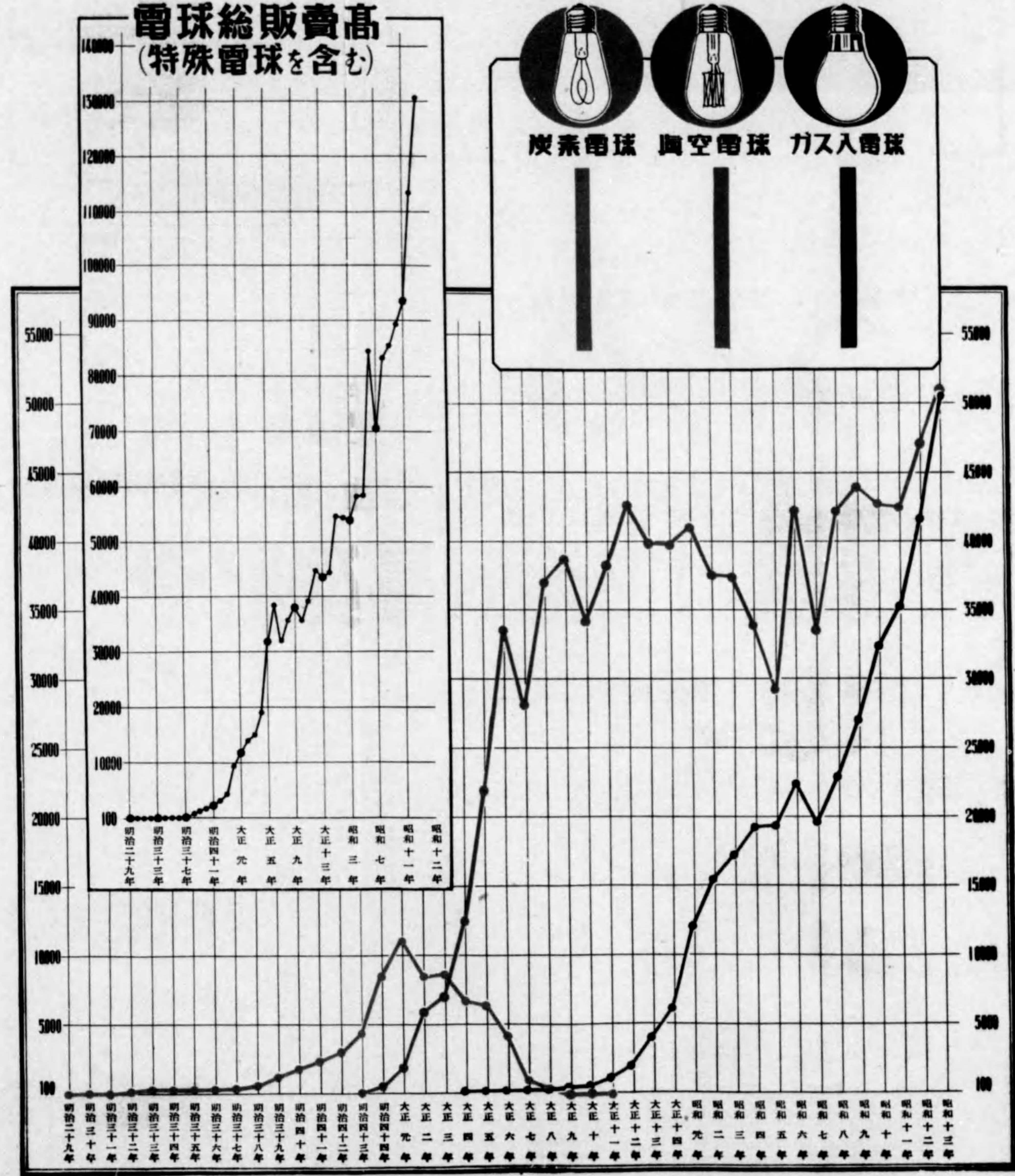
(数量の比率-明治二十九年に於ける炭素電球を基準とす)

電球総販賣高  
(特殊電球を含む)



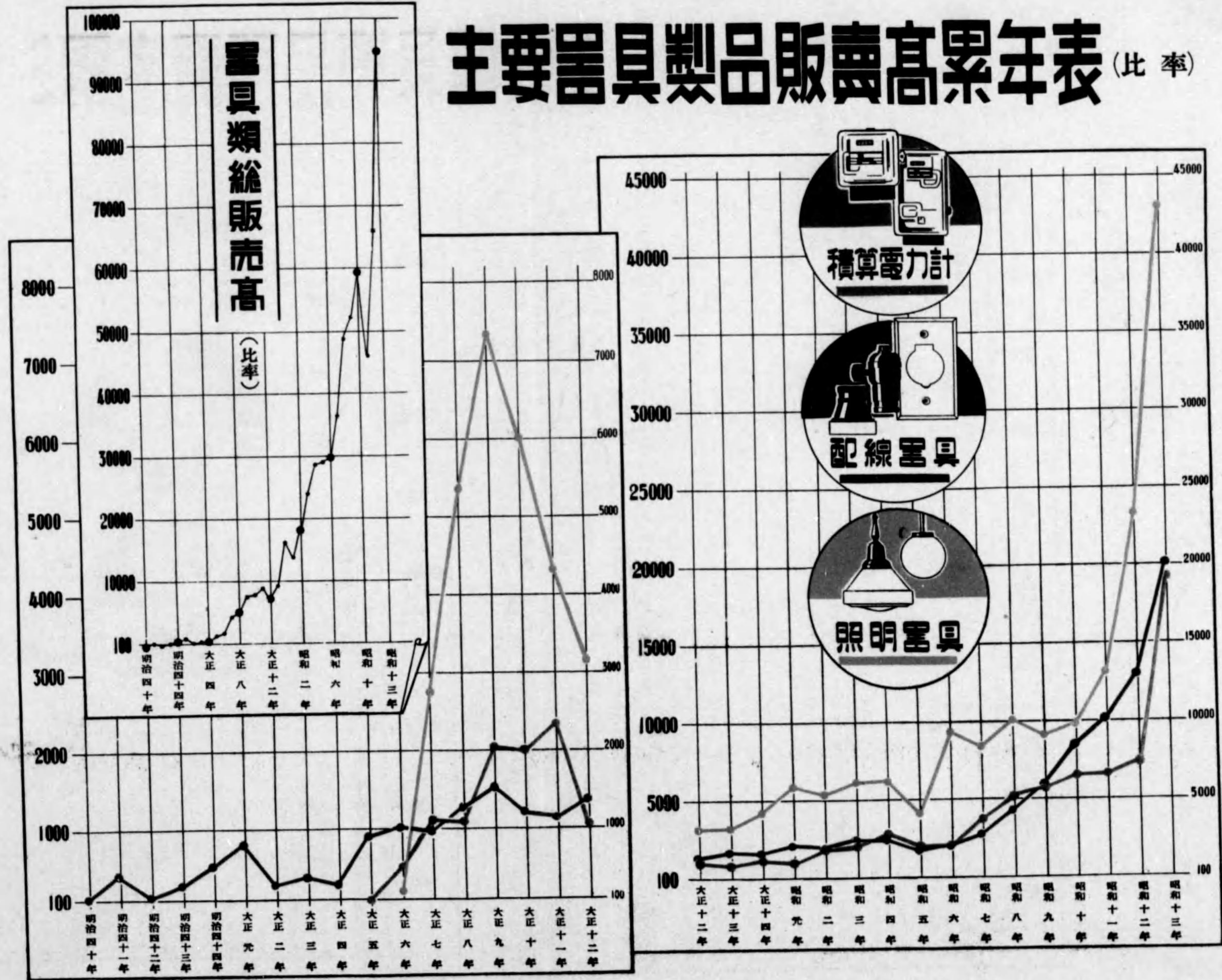
(数量の比率-明治二十九年に於ける炭素電球を基準とす)

電球総販賣高  
(特殊電球を含む)





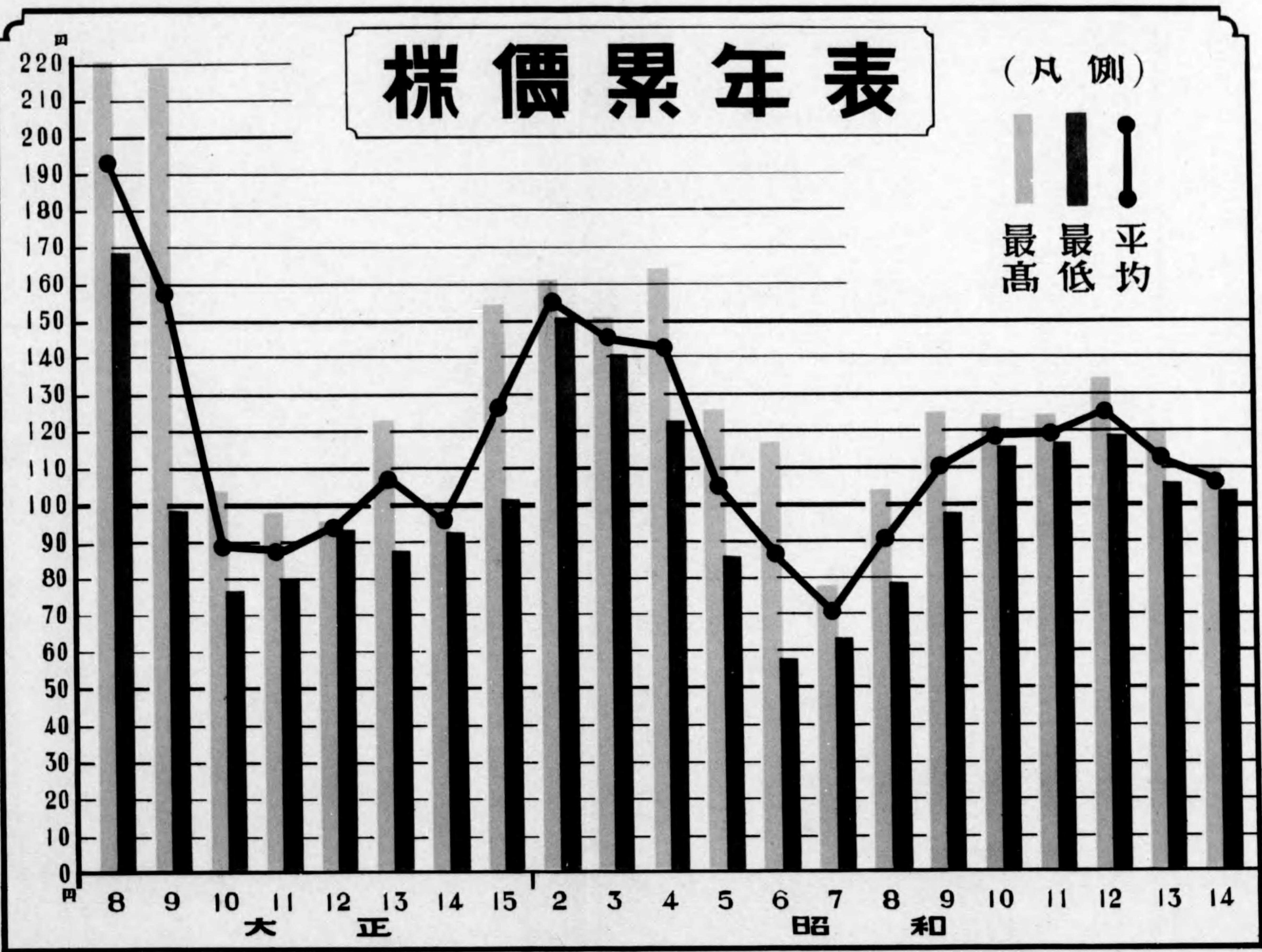
# 主要器具製品販賣高累年表 (比率)



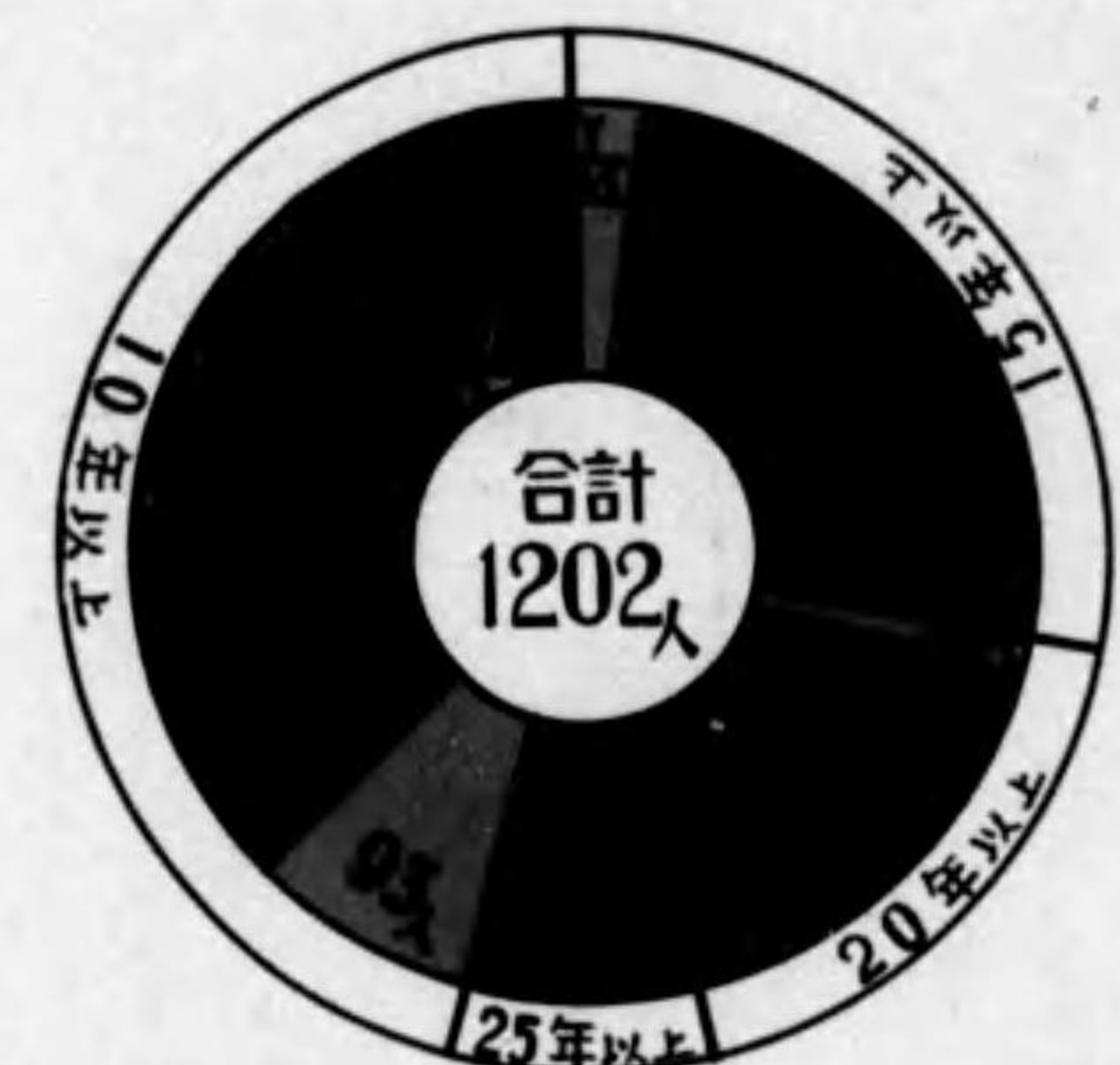
# 株價累年表

(凡例)

最高  
 最低  
 平均

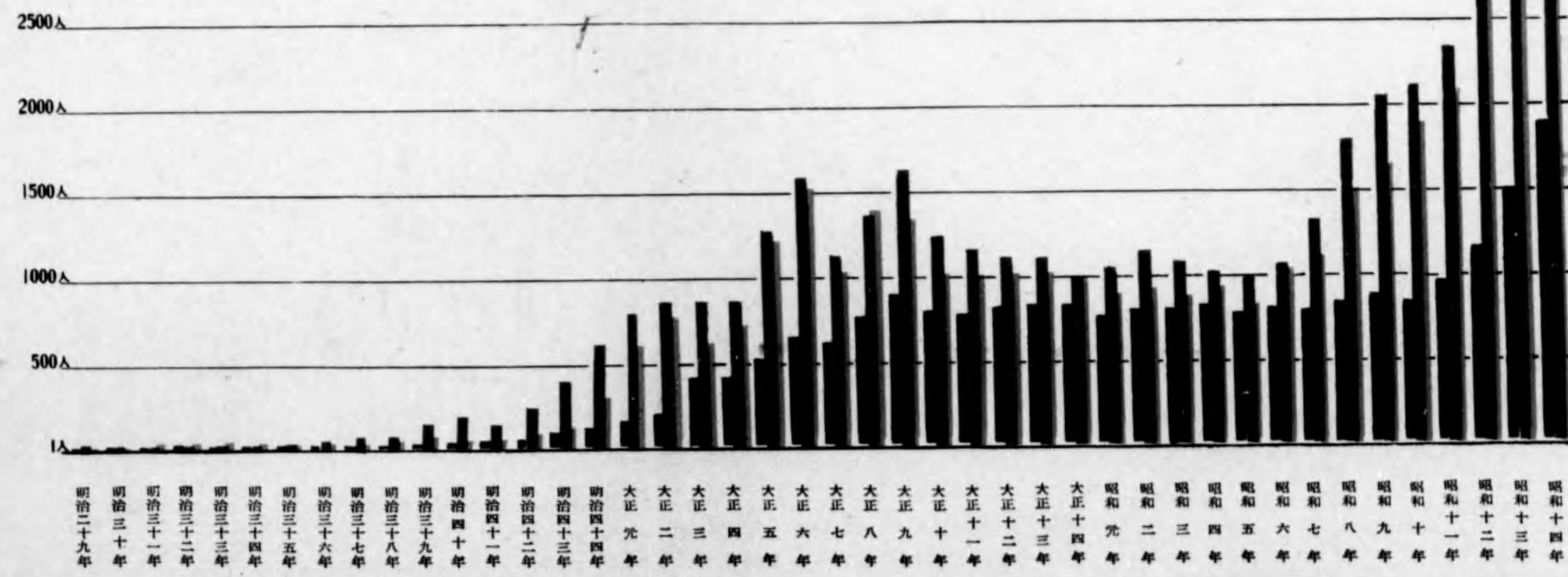
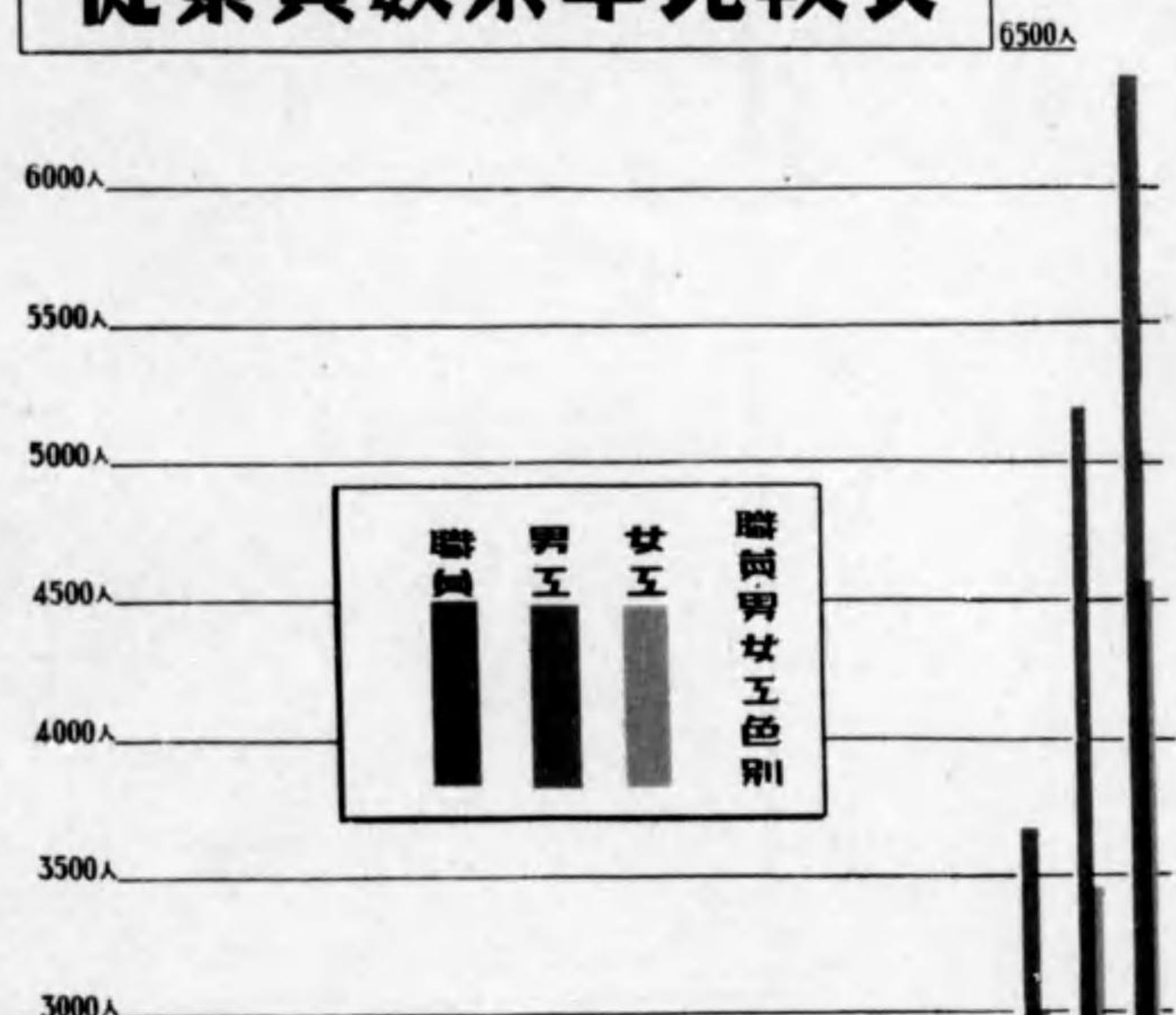


永年勤続者数(昭和十四年六月末現在)



職員 男 女  
工員 男 女

従業員数累年比較表

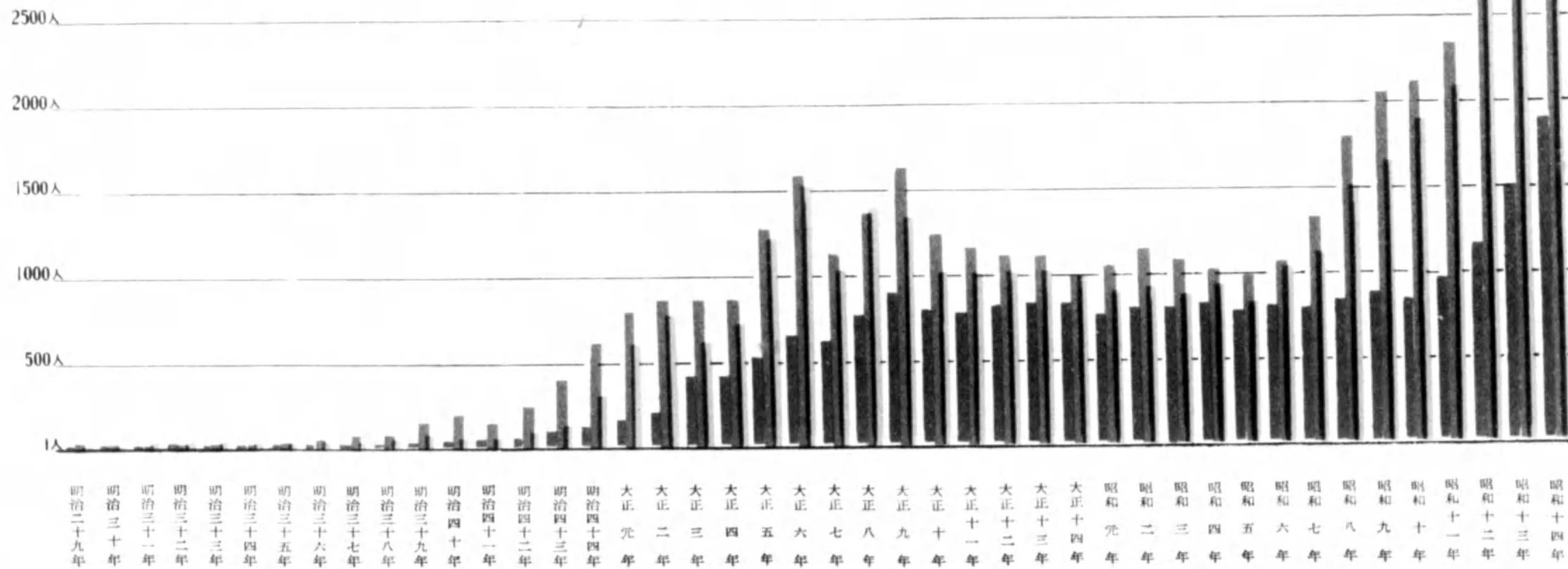
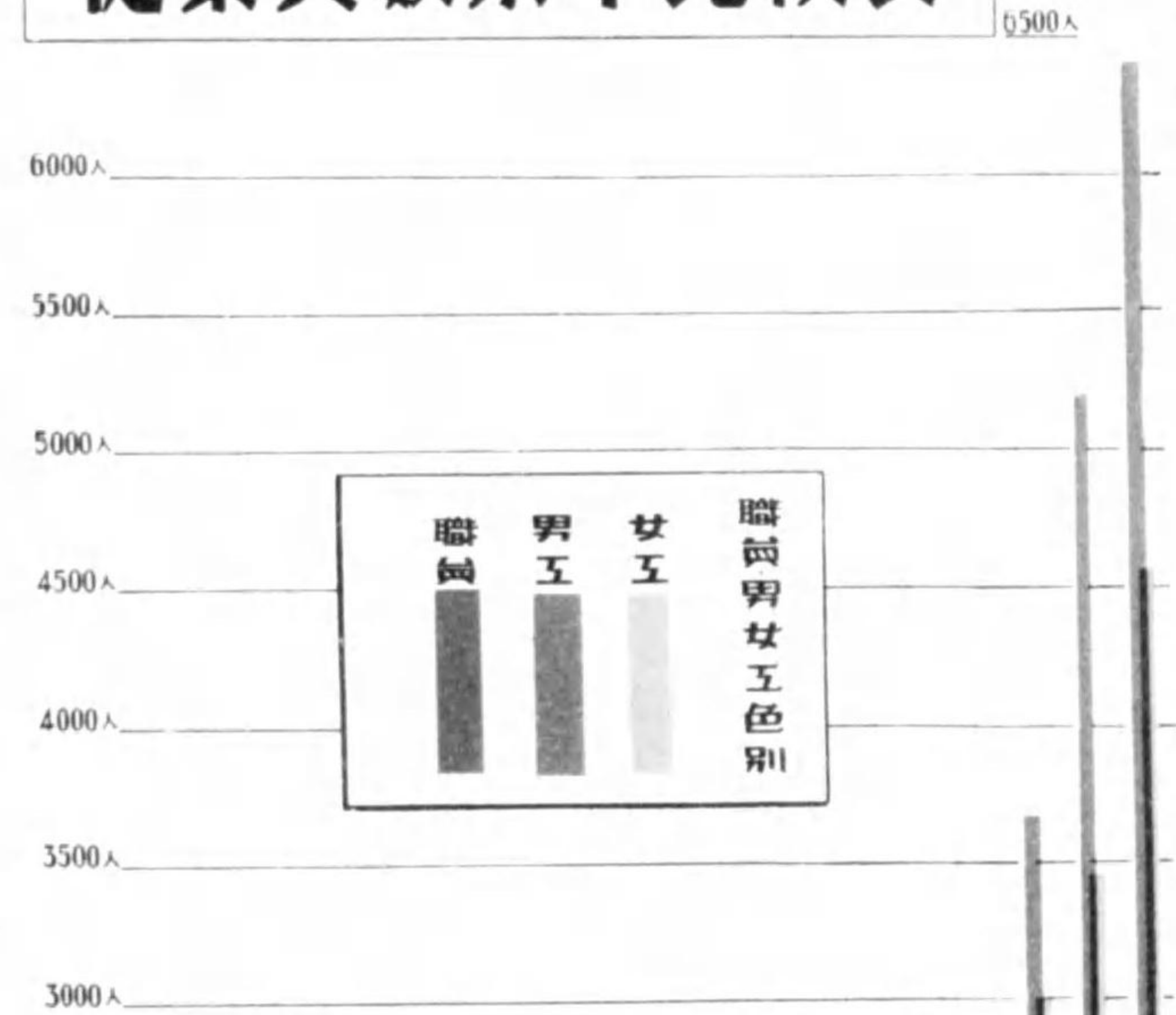


永年勤続者数(昭和十四年六月末現在)



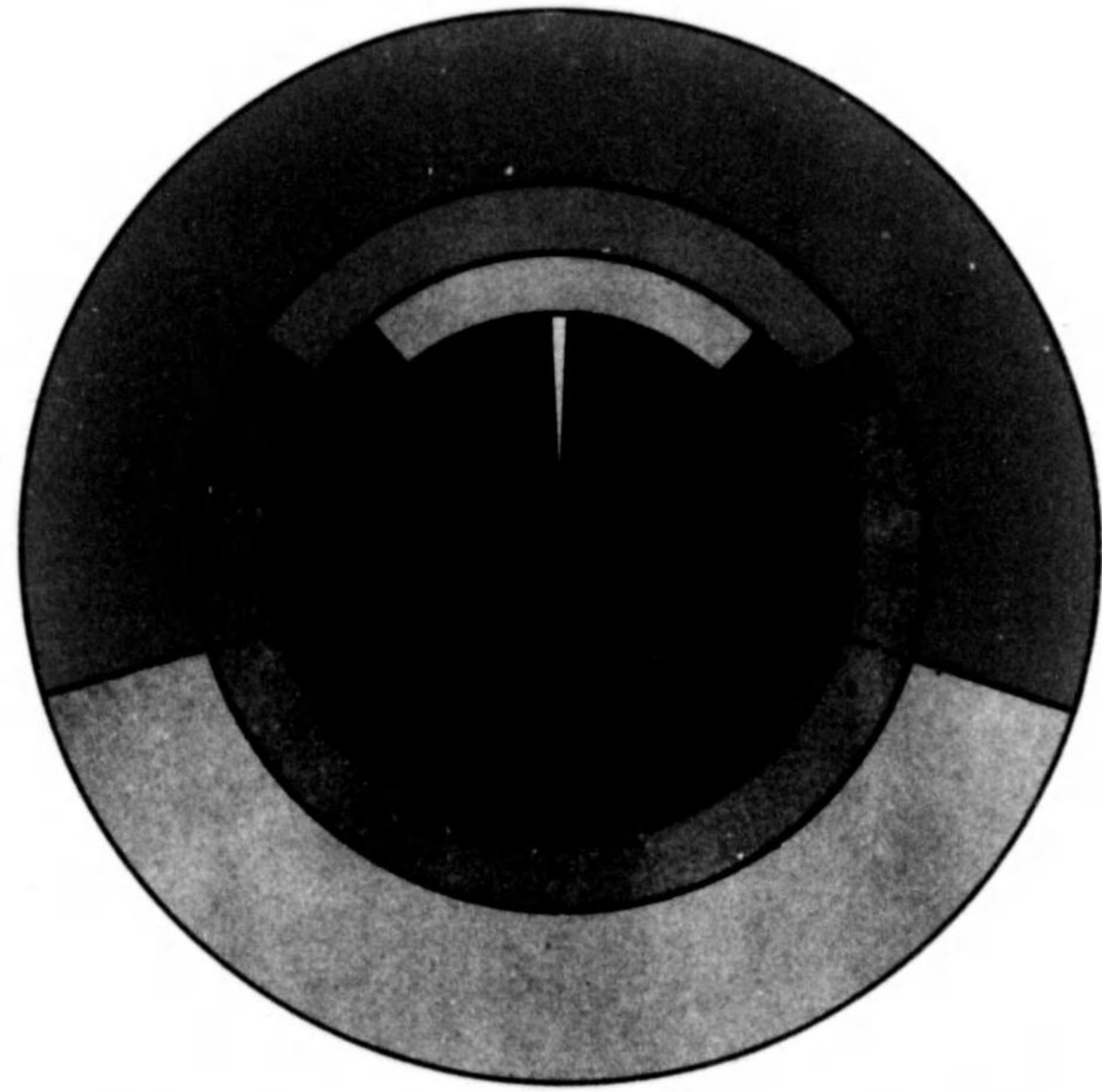
職員 男 女 工員 男 女

従業員数累年比較表



# 東京電氣株式會社 敷地と建家の変遷

明治四十三年より昭和十四年に至る

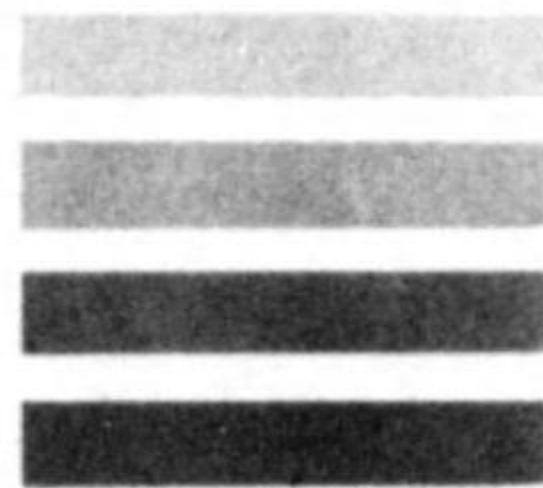


敷地



明治四十三年  
大正八年  
昭和四年  
昭和十四年

建家



昭和十五年十二月廿日印刷  
昭和十五年十二月卅日發行

東京電氣株式會社五十年史

〔非賣品〕

編輯兼發行者

川崎市堀川町七二番地  
東京電氣株式會社マツダ支社  
安井正太郎

印刷者

東京市小石川區久堅町一〇八番地  
大橋松雄

印刷所

東京市小石川區久堅町一〇八番地  
共同印刷株式會社

發行所

東京市京橋區銀座西五丁目二番地  
東京芝浦電氣株式會社

終